



持続可能な 地域づくりの鍵は「人」 西寺多治見市長を迎えて

「新しい仕事を与え、チャレンジすることで人は育ちます」「自分が意気を感じて仕事を進めれば、大変な仕事でもやりがいとなる。仕事の成果をメディアで発表したり、講師となる職員。仕事が面白いと感じるようになります。組織の中でたたかかれようとも、市民といっしょに仕事をする、そんな姿勢をもつ職員を大事にしています」。



1月22日(月)飯田市役所ISO 14001自己適合宣言を記念した座談会「挑戦！環境首都への道」が行われました。冒頭は講師として招待した西寺雅也多治見市長のことばです。コーディネーターは環境市民代表理事、枚本育生氏、コメンテーターは牧野光朗飯田市長です。

「何よりも大事なことは現場主義。まずは市民の中に飛び込むこと。まちなか再生の取り組みも、職員がまちに入って市民と共に考えることで、今まで見えてこなかったことが見えてきた。地域の課題を解決するための市民の活動に、職員はコーディネーターとしてどんどん入り、触媒としての役割を果たしてほしい」と牧野市長。

持続可能な地域社会をつくる大事な鍵は「人」。「地域でどのように人を育てていこうとしているか」枚本氏の問いに対するコメントです。

「問題のあるところでは対立する意見を持つ人たちも多くなります。そういうマイナスの条件を変えていく、黒子としての役割を職員には求めたい。(西寺市長)」

「例えば飲み屋のおかみさん。そこに集まる見ず知らずの人同士の会話をくりだしている。そしてその店に再び来てみたいという人たちを生みだしている。コーディネーターの力量と、その人の活動する場が必要です。(牧野市長)」

「リーダーは話し上手、コーディネーターは聞き上手。客観的な目線をもって組織の活動の中で皆の活動をつないでいく。自治体の職員だけでなく、事業所や市民の中からも、そういう人材を見つけ育てたい。(枚本氏)」

対談のまとめは「人」が焦点となりました。

政策形成ヒアリングで 自治体改革を

「河川改修の事業に、地域住民が関わることで、改修箇所をピオトープにしていこうという地域住民の自主活動が生まれました。そしてこの動きが、休耕田をピオトープとする市民活動につながりました」。

自治体のすべての事業に方向付けを行うヒアリング。一般的には企画、財政などの担当職員の仕事です。多治見市では政策形成ヒアリングという手法を用い、人事、環境担当職員も参加します。

例えば建設事業では、「自然エネルギーを活用しているか」「緑地面積は確保されているか」。イベントで「どのように廃棄物が削減できるか」「公共交通機関にあわせた時間や場所の選択」。など、企画段階から環境視点を盛り込むような指摘を行うことができます。

自治体すべての職場が、自分の専門領域の中で環境配慮を行い、環境行政を進めていきます。そしてそういう仕事の進め方が職員の意識を変え、市民の参加にもつながっていきます。

多治見市の政策形成ヒアリングは、縦割り型の自治体に、横のつながりをつくる自治体改革の有効な手法です。

統合的アプローチの視点で

「これまでの自治体は、中央の各省庁と担当ごとに結びつき仕事を進めてきました。地方分権のこれからは、基礎自治体は課題に応じて臨機応変に、横断的な仕事の進め方をすることが必要です」。牧野市長はこれからの自治体の仕事の進め方を「統合的アプローチ」と表現します。



自治体や自治体の職員は、課題や市民の集まる現場中心で仕事を進める。地域の事業者や近隣の自治体とはパワーアップ協定を結び、地域の自立に向けた互いの役割や責任を明確にすると共に、必要に応じて助け合う関係をつくる。国や県に対しては、省庁ごとの縦割りの支援ではなく、課題ごとに省庁を越えて基礎自治体に対する補助金などをパッケージで用意する、そんなしくみを提案しています。

「縦割り行政からの脱却」。多治見市の政策形成ヒアリングと共通した考え方です。

自治体間の切磋琢磨 首都コンテストの意義

1992年リオデジャネイロで行われた地球環境サミットで、地球環境問題の解決に向けた世界的な行動指針「アジェンダ21」が採択されました。実効をあげるためには、基礎自治体の役割はきわめて大きいといわれています。

「環境にやさしく」「経済活動も活発で」「福祉や人権などの社会的な公正も保障された」バランスのある社会。持続可能な社会を実現する条件です。

環境首都コンテストも、持続可能な地域づくりを目指す自治体を国内に広げていきたいという、環境NGOからのメッセージです。

多治見市では、基本計画と市長のマニフェストをリンクさせています。市民参加で策定された基本計画を、市長の選挙公約とする。基本計画の進行管理も市民懇談会に諮らなければ、たとえ当の市長であっても変更することはできません。徹底的な情報公開と市民参加のしくみです。

「縦割り行政からの脱却と、情報公開・市民参加など、開かれたしくみ。先進的に環境問題に取り組む自治体に共通する取り組みです」と枚本氏。



「この座談会のように自治体同士の交流や切磋琢磨につながることも、環境首都コンテストに参加する意義です」と牧野市長。

「ドイツの環境首都となったハム市やエッカーンフェルデ市も、財政的には厳しい自治体です。お金があれば環境首都になれるわけではありません。環境をキーワードに、知恵を出し合いまちづくりを進めたことで、今の姿があります。やればできるんだ、そんな姿勢で取り組んでください」。枚本氏からのエールです。

持続可能な地域社会づくりに向けて、多様な主体の参加によるまちづくり。飯田市、そして南信州のこれからは期待します。



【ご意見、お問合せ】【配信解除】
沢柳俊之(多摩川精機株式会社) 研究会事務局
p05300@tamagawa-seiki.co.jp
木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局
ic1267@city.iida.nagano.jp



西寺多治見市長 研究会、萩本代表を訪問

「1997年、この地域の5つの事業所に飯田市役所が加わって、研究会は生まれました。1996年にISO 14001規格が生まれ、まずはその規格に皆で挑戦することが発足当初の目標でした」。



「最初飯田市は腰が重かったのですが、当時自治体でこの規格に取り組むところはほとんどなく、こういう地方都市でも名の出るしかけになるのではないかと働きかけました」。

「環境問題は、個々の事業所のサイトを越えて広がります。自分のサイトだけを守ってはいけません。地域ぐるみの環境改善活動をすすめることが必要。従業員も地域に帰れば一人の市民、地域全体で取り組むことで、事業所の点の活動が面に広がります」。

「2003年1月、飯田市が日本の自治体としては初めてのISO 14001自己適合宣言を行ったときも、自己満足で終わらない客観的なチェックが必要と、内部監査を公開する、相互内部監査という手法を取り入れました。ここに研究会実務者が参加することで、自己適合宣言は支えられています」。

1月23日(火)、西寺雅也多治見市長が、地域ぐるみ環境ISO研究会代表、多摩川精機株式会社の萩本範文社長を訪問。懇談を行いました。

懇談では主に萩本代表から研究会の活動や、企業家として地域の自立に向けた思いを語っていただきました。

西寺市長は22日(月)座談会「挑戦！環境首都への道」の講師として来飯。座談会終了後の交流会は、体験教育旅行の受け入れを進めている原さだ子さん(北方)が経営する楽珍房、宿泊は小木曾清一さん(大瀬木)のお宅にお世話になり、「感動体験！南信州」の現場を実体験していただきました。

23日(火)は、会社の歴史と世相を重ね合わせた博物館、多摩川精機「歴史館」を見学。そして萩本代表との懇談です。



パワーアップ協定は 事業所のマニフェスト

「我が社をはじめとして、この地域の事業所や経済団体が、飯田市とパワーアップ協定を結んでいます。飯田市に限らず自治体では、盛んに企業誘致を進めています。しかしほとんどの場合、誘致が成功したことで関係が終わってしまいます。むしろ誘致後にも事業所と自治体がコミュニケーションを続けていくことが大事です。地域との関係が生まれることで、事業所には、地域に対する愛着が生まれます。牧野市長は、この地域の経済自立度を現在の45%から70%に高めることを、公約の一つとして当選しました。パワーアップ協定を結ぶことは、経済自立度を高めようという飯田市の政策を、事業所としても支援しますという約束です。自治体の仕事は地域やそこに生活する人の暮らしを支えることです。事業所を支える従業員も地域住民です。事業所である限りどのように売り上げを高めるかという戦略は必要ですが、その地域にたいして事業所として何ができるか考えることも大事です。パワーアップ協定は、事業所にとってのマニフェストともいえます」。パワーアップ協定にたいする萩本社長の思いです。

多治見市と飯田市、自治体同士の交流を越えて、事業所や、市民同士の交流に広がることを期待します。



農家泊、小木曾清一さん宅で



楽珍房、心配りの行き届いた田舎料理

話してみれば見えてくる 悩みごと相談会開催

著しい環境影響をもれなく調査しようとする、環境影響評価の手順書のボリュームや、作業の負担が大きくなり、事務局任せで各部署の主体的な取り組みが広がりにくくなります。

A社から「システム全体を軽くして、EMSの取り組みを、組織の構成員一人ひとりの主体的な取り組みに広げたい」という悩みが出されました。

B社では、手順まで示した1枚のシートで環境影響評価を行う簡略化を進めることで、各部署ごとの主体的につなげようという試みを始めました。

1月23日(火)オムロン飯田を会場に、初めての悩みごと相談会が行われました。各事業所でEMSの事務局をつとめる実務者は、よりよいシステムづくりに向けて常に悩んでいます。誰かが悩みを発したら、それをテーマで話し合い、互いの事業所のシステム改善につなげよう。悩みごと相談会の趣旨です。

「毎年職場ごとに話し合い、皆の合意とされたことを著しい環境側面としています。環境影響調査で著しい環境側面を特定するために、多くの事業所で点数制度を採用しています。点数制度が本当に客観性を担保するのだろうか。そんな話題に対するC社の担当者の意見です。

「製品の不良ロスをなくすことを目標とすることで、本来業務につなげています」「法令に定められた有資格者の力量に限らず、社員一人ひとりがEMSに関わる自覚を促す取り組みを進めています」「力量の向上を図るためにペーパーテストを定期的実施しています」。意見交換を通して、事業所ごとの多様な取り組みが見えてきました。

「について悩んでいる」。そんなときには気軽にメールを事務局に送ってください。テーマに応じて、同じ悩みや興味関心を持つ実務者有志が参加する悩みごと相談会。これからも続けていきます。



【ご意見、お問合せ】【配信解除】
沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局
toshiyuki-sawayanagi@tamagawa-seiki.co.jp
木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局
ic1267@city.iida.nagano.jp



ノーマイカーとライトダウン 京都議定書発効2周年 一斉行動を行います

1997年京都議定書を採択。ロシアの批准により発効したのが、2005年2月16日。今年で2周年を迎えます。

「20世紀の地球は、平均気温が0.6、海面水位は10～20cm上昇」。気候変動に関する政府間パネル「IPCC」による報告です。近年多発する巨大ハリケーン、氷河の縮小など温暖化の影響が目に見える形で表れています。

1990年比で 6%を約束した我が国は、2002年現在+8%。それに対してドイツは 19%、イギリスは 15%。温室効果ガス削減の目標達成に向けて、我が国には一層強力な取り組みが求められています。

地域ぐるみ環境ISO研究会は京都議定書の発効を記念して、今年は「ノーマイカー通勤」と「ライトダウン」に取り組みます。

「徒歩、自転車、自動二輪車利用」「バス・電車など公共交通機関の利用」「乗り合わせ」など、2月16日には一斉にノーマイカーで通勤しましょう。

勤務条件などの理由でノーマイカー通勤できない方は、ライトダウンに取り組みます。照明やテレビのスイッチを午後10時までにOFFにしましょう。



可能な方はノーマイカーとライトダウンの両方に取り組んでください。「電気を消してロウソクの明かりでお風呂に入ったら、とても幻想的でした」。省エネ活動に積極的に取り組む明星保育園、ある園児の家庭での工夫です。一人ひとりのアイデアで、楽しみながら取り組んでみませんか。

今回の一斉行動は、地域ぐるみ環境ISO研究会が呼びかけますが、どなたでも参加できます。

参加の方法は研究会のHP

<http://www.city.iida.nagano.jp/kankyo/iso/index.html>をご参照ください。

取り組みの結果も、改めて報告します。多くの皆さんの行動をお待ちしています。

環境事業に融資 八十二銀行の取り組み

「八十二銀行は...環境関連事業への融資業務で、三菱東京UFJ銀行と...業務協力協定を締結した。県内企業の発電や省エネ、廃棄物削減などに関する事業に対して協調融資を実行するほか、八十二銀行が行員を三菱東京UFJ銀行へ研修派遣に出すなど、人材交流も進める方針だ。協調融資を行う事業には、風力、太陽光などの発電装置や、廃棄物のリサイクル施設の整備などを想定。十億円を超える大型融資などにも対応する。県内企業の動向に詳しい八十二銀行と、昨年十月に専門部署を設置して環境関連融資に力を入れる三菱東京UFJ銀行が連携を深めるねらいもある。八十二銀行は昨年からの環境管理の国際規格ISO 14001の認証取得企業に対し、保証料などを優遇する私債も引き受けている。同行営業部統括は「県内でも今後、環境関連事業がさらに成長すると見込んでおり、資金力やノウハウのある三菱東京UFJ銀行との協定を決めた」としている。...」

信濃毎日新聞2006年12月23日付紙面で、地域ぐるみ環境ISO研究会の参加事業所八十二銀行が、環境関連融資サービスを始めたことが報道された。

環境関連事業に取り組む事業所のプライオリティや、事業に取り組んでみるためのインセンティブとして、有効なサービスとなりそうです。詳しくは八十二銀行HPをご参照ください。
<http://www.82bank.co.jp/>

進む自己適合宣言 上田市の取り組みから

「上田信用金庫(職員数300名)は、2005年10月から25サイトすべてがISO14001 自己適合宣言に移行しました。...自己適合宣言への移行メリットは...以下の2点が大きな要因です。(1)地元の...環境ISOネットワークの協力が得られたこと。(2)長野県内の自己適合宣言の先駆者である、飯田市役所及び上田市役所が存在し、良き相談相手であり、非常に心強かったこと...」いであ(株)ISO推進室が発行する環境管理情報で、ISO14001 上田地域の自己適合宣言の取り組みが紹介されました。報告者は同金庫の山崎敦之さんです。

地域ネットワークが鍵 自己宣言を支えるために

飯田市役所(2003年1月23日)、上田市役所(2005年2月28日)、長野県信用組合(2005年3月3日)、上田信用金庫(2005年10月11日)、小諸市役所(2006年3月1日)、長野県連合青果(2006年3月25日)、三六組(2006年12月21日)、これまで長野県内で自己宣言を行った組織です。

上田地方には3つの環境ISOネットワークがあります。上田市(17事業所)、東御市(15事業所)、丸子町(15事業所)です。

このうち上田市環境ISOネットワークは上田市民自らが環境改善活動を進める「環境市民会議」の一つとして活動を進めています。環境ISOに取り組む事業所同士の情報交換や、事業所見学、相互内部監査など、活動の内容は地域ぐるみ環境ISO研究会と共通しています。

上田市役所の自己適合宣言は、上田市環境ISOネットワークによる第三者環境監査に支えられています。

ISO 14001自己宣言、環境改善活動の広がり共に、「地域ぐるみ」が鍵といえそうです。

環境文明21主催 「持続可能な社会のための 企業経営」のお知らせ

環境省の初代地球環境部長をつとめた加藤三郎さんが代表。企業の持続的な環境経営を支援するNPO環境文明21が、



シンポジウム「持続可能な社会のための企業経営」を開催します。

環境問題の悪化、数々の不祥事など、企業の社会的責任を問う目は大変厳しくなっています。「内部統制」と「環境」、2つのキーワードを手がかりに「持続可能な社会における企業経営」について考えます。加藤さんやEMS、CSRのエキスパートによる講演と意見交換です。

とき 3月2日(金)13:30～17:00

ところ 東京ウィメンズプラザ

参加についての詳細は、以下HPをご参照ください。

<http://www.neting.or.jp/eco/kanbun/>

【ご意見、お問合せ】【配信解除】
沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局
toshiyuki-sawayanagi@tamagawa-seiki.co.jp
木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局
ic1267@city.iida.nagano.jp



企業発 市民意識へ 松本でゴミへらし討論会 研究会の紹介も

「温室効果ガスのうち約3%はゴミが原因といわれます。全国自治体のごみ処理に関わる費用は3兆円に及びます。地球温暖化防止と、自治体財政健全化の視点から、ごみ減量は重要です」。2月3日(土)松本市役所で「第3回中信地区ごみ減らし討論会」(同討論会実行委員会など主催)が開催されました。冒頭は実行委員長を務めた福島和夫・信州大学理学部教授のあいさつです。



はじめに行われた全体会では、飯田市内の取り組みが映像で紹介されました。市内のスーパーでのトレイ回収、マイバッグの利用状況、環境衛生組合によるリサイクルステーション、地域ぐるみ環境ISO研究会の活動などが紹介されていました。「事業所の環境改善の取り組みを、研究会がネットワークすることで、線の取り組みとする。従業員は家庭に帰れば皆市民。地域全体の面の取り組みに広がるのが研究会の目的です」。インタビューを受けた、研究会沢柳俊之事務局長のことばです。



放映後はパネルディスカッション。研究会事務局から小野寺聡一さんが参加。研究会の取り組み、特に南信州いむす21を中心に報告。「ごみ減量そのものを目的とするというよりは、減量を進める仕組みをつくり継続的に改善するのがEMSです」「役割と自覚の重要性はEMSだけではない」。研究会の活動、地域独自のEMS南信州いむす21について、報告しました。

研究会の活動は、ごみ減量には直結しませんが、事業所ネットワークによる市民の意識変革をねらう研究会の問題提起は、環境改善に向けた市民意識を広げる新たな視点として、参加者の共感をいただきました。



改めて自治を考える 細野集落の取り組みから

「上越市、細野集落の話です。1979年、40～50代の住民数人が集まりました。現在は23戸80人の細野集落。当時の人口は150人でした。



『今の暮らしは幸せだけれど20年たった頃は皆年をとり、子どもも減って大変な時代になるんじゃないかい。』転ばぬ先の杖、今から将来のことを考えて勉強を始めてみようじゃないか。まずはいろいろな町を見よう、夫婦同伴で毎年旅を続けました。先進といわれる農村に共通していたのは都市の人たちと交流していること。そしてその地ならではの産物を交流に活かしていること。うちでできると言えば笹団子。それを活かして地域づくりをしてみようと、『緑の細野、春の祭典』を催したところ、都市から多くの人を訪れました。笹団子、毎日市を開いて売ってみると、11時には完売。1994年笹団子づくりの『工房があちゃんの家』が完成。とうちゃんたちは木工品の加工販売を行う『工房ほその』を、そして訪れる人たちが泊まっていける『六夜山荘』をつくりました。評判が評判を呼んで年間の収益が3,000万円。『一人暮らしのお年寄りの集うサロンの運営に』『皆で視察研修するときの補助金に』など、中心メンバーだけで収益を分配するのではなく、集落到に住む人皆にその利益を還元するために『NPO 法人自然王国ほその村』を立ち上げました。」



1月27日(日)上郷公民館で、地域づくりフォーラムが開催されました。冒頭はフォーラムの基調講演講師で、高崎経済大学助教授の、櫻井常矢さんの講演からの引用です。同大学は国内唯一の「地域づくり学科」を設置、各地の地域づくりに関わっています。

自治を考えるチャンス

格差社会が広がっています。我が国で所得上位20%の人たちと、下位20%を比べると、1970年の10倍が80年には20倍、2006年には170倍になりました。家計のやりくりが苦しくなったという人が増えており、子どもをめぐる不幸な事件が多発するなど、暮らしにくい世の中になってきました。

そういう現状をマイナス思考でとらえるのではなく、プラス思考で具体的な実践に結びつける。皆が知恵と力を寄せ合えば、どんな条件の地域でも元気な地域に生まれ変わる。細野集落の話には説得力があります。

「自分や仲間の問題を、自分や仲間の力で解決する」。自治とはそういうことではないでしょうか。地域自治組織の問題は、組織づくりの問題というよりは、自治について改めて見直すチャンスです。

学校給食の問題をPTAだけで考えず、食生活改善グループや保健指導員が共に考えればいろいろな「食育」活動が考えられます。

地域の組織は行政以上に縦割りで、組織同士のつながりが少なかったと言われます。組織同士が横のつながりを結ぶことで、今までできなかったことが可能になります。

子や孫が暮らしたい地域に

「子や孫が大人になったとき、支えたいと思う地域、暮らしたいと思う地域、そういう地域をつくるチャンスとして考えてみませんか。飯田市は、公民館活動の盛んな地域であると言われます。公民館で育んだ住民同士の厚い関係、皆で話し合い学ぶ風土、これまで蓄積した力をぜひ活かしていきましょう」櫻井さんのまとめのことばです。



【ご意見、お問合せ】【配信解除】
沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局
toshiyuki-sawayanagi@tamagawa-seiki.co.jp
木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局
ic1267@city.iida.nagano.jp



宮下板金工業と飯伊広域 消防本部に新たな登録証 南信州いむす 21

「南信州いむす21の登録証を受けたという、責任の重さを実感しています。現在飯田建築板金工業会(会員40人)の会長を務めていますが、会の仲間にも活動を広げ、取引先とも協力し、環境改善活動に取り組んでいきます」。



2月15日(木)、南信州いむす21登録証の交付式が行われました。冒頭は新しく初級に登録された宮下板金工業代表取締役、宮下忠雄さんのことばです。あわせて飯伊広域消防本部が中級に登録されました。

「自社で使用している蛍光灯反射板を製造・販売し、顧客の電気使用量の削減やコストダウンを提案しています。また、廃油ガス化ストーブの販売を行い、廃油の有効活用による、廃棄物低減の提案も行っています。」(宮下板金工業)

「コピー用紙の使用削減、リサイクル・リユースなどエコオフィス活動の推進を基本的な活動としながら、消防車両や危険物施設の適正維持管理、火災発生減少の取り組みなどを進めています。」(飯伊広域消防本部)

事業所の本来業務につながった、特徴的な活動が見られます。

今回の登録で、南信州いむす21取り組み事業所は、初級49、中級4、ISO14001南信州宣言1、合計54事業所。取り組み宣言事業所が初級1、中級1、合計2事業所となりました。

「南信州いむす21の取り組みも少しずつ地域に広がってきました。事業所の取り組みから家庭地域へ広げ、面の活動に広がるように、地道な活動ですが、これからもがんばってください」。牧野広域連合長のことばです。

南信州いむす21の取り組みを通じた、環境改善活動の一層の広がりが期待されます。

京都議定書発効2周年 本日は一斉行動の日です

「温暖化の原因は、人間の活動による温室効果ガスの増加にある」「過去100年で世界の気温は0.74度上昇。最近50年間の上昇の割合は過去100年の2倍のスピードである」「今後20年間は10年あたり0.2度上昇する」「今世紀末までに世界の平均気温は1.8~6.4度上昇し、海面も18~59cm上昇する」「北極海の氷は今世紀後半までにほぼ完全になくなる」「台風やハリケーンは大型化し、豪雨が増える」「大気中の二酸化炭素濃度が上昇し、海の酸性化が進む」

「気候変動に関する政府間パネル(IPCC)」は、国連が設置、世界の科学者の知見を集め、温暖化の現状と評価を発表してきました。冒頭はIPCCによる最新の報告案からの引用です。

1992年に採択された「気候変動枠組み条約」、1997年の「京都議定書」とも、IPCCによる評価を受けた動きです。

2005年の今日、京都議定書は発効しました。地球温暖化の原因となる、温室効果ガス削減に向けて、世界中で取り組みが進められています。

しかし予想以上に地球の状態は悪化を続けています。

「ノーマイカー通勤」と「午後10時にはライトダウンとテレビの主電源をOFF」。地域ぐるみ環境ISO研究会が呼びかけた本日の一斉行動です。

社員30人で学習会 木下建設の取り組み

研究会メンバーの木下建設株式会社では、本社屋で地球温暖化問題の学習会が行われました。研究会の用意した、共通の啓発文の他、地球温暖化の現状を学ぶために、会社独自の資料を用意。小さなことで少しずつ積み上げていくことで、子や孫の世代のためにも温暖化防止の取り組みを進めることを確認しました。



この取り組みによる温室効果ガス削減の効果はわずかもかもしれませんが、取り組みへの参加をきっかけに、温暖化防止に向けた活動や意識が広がることをねらっています。

本日の取り組みの成果は後日取りまとめ、この通信で報告します。



【ご意見、お問合せ】【配信解除】
沢柳俊之(多摩川精機株式会社) 研究会事務局
toshiyuki-sawayanagi@tamagawa-seiki.co.jp
木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局
ic1267@city.iida.nagano.jp





研究会に特別賞 南信州地域づくり大賞

「南信州は、暮らしには厳しい条件の地です。しかし志を持ち、おのれのためならず、熱心な活動を進める人や組織が数多くあります。地方分権の時代、まずそこに暮らす人々の生活があり、それを支える地域から始まり、市町村、県、国という上意下達ではない考え方も必要です。県としてこの地で努力する皆様にたいし、感謝の気持ちを込めてお祝いし、少しでもこれからの活動の励みにつながることであればと、この賞を創設しました。」

2月22日(木)第1回南信州地域づくり大賞の表彰式が行われました。冒頭はこの賞を主催する下伊那地方事務所長田山重晴さんのことばです。

地域ぐるみ環境ISO研究会は、「暮らし・生活・環境部門」の特別賞を受賞。特別賞は峰竜太賞。峰さんが下條村の出身という縁で創設されました。シズン平和時計(株)常勤監査役、伊藤俊一さんが研究会を代表して参加。



「『南信州モデル』ともいべき独特の地域版環境管理システムは、住民、企業、行政が一体となった『地域ぐるみ』の活動であり、他に例を見ない先駆的な取り組みとして、県内外から大きく期待されています」。受賞の理由です。

「暮らし・生活・環境部門」大賞(知事賞)は、よこね田んぼ保全委員会。「棚田を原風景として復活させるのみならず、日本の農が築いてきた文化遺産として継承するとともに、大地と水の循環を活かした環境保全活動として都市交流へ発展させた先駆的な取り組みです」。受賞の理由です。

「地域経済活性化部門」では「伊那谷の森で家をつくる会」。同じく「伝統文化・歴史・教育部門」では「上清内路煙火同志会・下清内路煙火有志会」の皆さんが大賞を受賞。3つの部門で大賞3団体、特別賞6団体、奨励賞13団体・個人が表彰されました。

大賞と特別賞はナラの木を使用した表彰状。アイデアあふれ、暖かい心遣いを感じるプレゼントでした。

県職員による自主研究 ポテンシャルSideB発表会

「南信州に関する中京地区住民の満足度及び認知度」「南信州の特徴を生かした景観形成のあり方」「定住促進を目指した空き家・古民家活用を提供側から考える」「下伊那の気象に関わる言い伝え、古文書から見た災害」「南信州特産の竹の活用策」「飯田の和菓子を活かす観光戦略」「南信州の観光スポットとなる『秘境』」「南信州の星・月の見やすいスポット」「南信州のひなびた花火」「南信州の中世山城」。

表彰式当日は、県職員による自主研究ポテンシャルSideBの研究発表会も行われました。

冒頭は研究発表のテーマです。「空き屋を貸す理由:空き屋にしておく」と老朽化する。空き屋を貸さない理由:仏壇等の家財を置いている。盆や正月など時々使用する。空き屋を貸すための条件:入居者が信頼できる人、自分が使わないときに限る」。定住促進を目的とした空き家・古民家利用を利用者側から考える研究からの引用です。IJUターンを進める立場からも、興味深い聞き取りデータです。研究発表の資料には、地元に住んでいながら知らなかった興味深いデータが満載しています。

まずは足元の地域や生活を知ることから始める。県職員の皆さんの真摯な姿勢が伺える、有意義な発表会でした。職員同士の研究の枠を超え、住民、事業者、行政が一体となった研究と行動につながることを期待されます。



ナラの木でつくった表彰状



受賞者の皆さん

融合でWin&Win 岸裕司さんの講演会から

「学制発布の明治5年よりさかのぼる明治2年、京都に番組小学校が生まれました。皇室や貴族が東京に移住し、寂れていく京都を何とかしようと町衆が、今でいう町会ごとに52の、自らが運営する小学校をつくりました。江戸時代の寺子屋も自分たちの子どもを自分たちで教え育てる教育施設です。子どもたちは学校で専門の教師が育てるもの。そして子や孫のいない地域の人たちにとって学校は縁のない場所。そんな現代の風潮を変えていこうと取り組んでいます。」

2月21日(水)、講演会「学社融合の発想で、楽しく元気な待ち育て」が行われました。主催は下久堅公民館。冒頭は講師を務めた岸裕司さんのことばです。

岸さんは1980年、千葉県習志野市の埋め立て地、秋津地区に誕生した秋津小学校を拠点に、地域と学校を結ぶ活動を続けています。空き教室を活用した拠点は名づけて「秋津コミュニティ」。「学社融合」を合い言葉に、現在は顧問の立場で、この動きを全国に広げようと活動を進めています。

「自分には孫がいませんが、学校に来れば子どもたちと将棋が打てます(将棋クラブのお年寄り)。秋津コミュニティの活動は、学校を拠点に、子どもたちと地域住民が混ざり合って活動します。将棋などのクラブ活動は学校の活動であると共に地域のクラブ活動です。」

「大災害などいざというとき、学校は避難場所となります。地域の人たちが日常的に学校に慣れ親しんでいれば、誰もがすぐに対応できます」。年に1度は避難訓練を兼ねた防災キャンプも行っています。

「地域の人たちが学校を介して日頃からつながりを持つことで、子どもにとっても安心で、皆が住んでみたいまちづくりの活動になります。」

公民館活動や地域づくりの活動の盛んな南信州。学校と公民館の融合で元気な地域づくり。そんなアイデアも浮かんだ有意義なひとときでした。

【ご意見、お問合せ】【配信解除】
沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局
toshiyuki-sawayanagi@tamagawa-seiki.co.jp
木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局
ic1267@city.iida.nagano.jp





59事業所5,636人が参加 議定書発効2周年一斉行動

「終業前に社員一同で、地球温暖化の現状と、私たちができることをテーマに30分間の学習会を行いました(木下建設株)。

2月16日(金)京都議定書発効2周年を記念した、「ノーマイカー通勤」と「午後10時のライトダウン」。研究会が呼びかけた一斉行動へ、59事業所から5,636人に参加いただきました。研究会参加事業所以外からも、29事業所、1,418人が参加。取り組みの広がりが見られました。



2周年を記念した啓発文書の読み合わせの参加者は5,636人。ノーマイカー通勤に1,914人、午後10時のライトダウン＆テレビのスイッチOFFに2,745人が参加。

ライトダウンの前に 家族同士の話し合いも

「教育テレビの環境をテーマとした番組を教材に、家族で話し合いを行いました。平均気温、4度上昇で2ヶ月真夏日が増加するなど、100年後のこととはいえ、深刻に受け止めました」「子どもたちと話し合い、9時30分にテレビのスイッチを切りました。家族同士のコミュニケーションにもつながりました。

「就寝2時間前はテレビを見ずに、読書とラジオの視聴に変えました」「電気毛布の使用をやめ、湯たんぽを使用しました」「電気毛布の強度を半分にしました」「暖房機を使用せずに早めに床につきました」「家族一緒にの部屋にいる時間を長くしました」。色々な工夫が見られました。

「会社として18時全員退社のノーマイカーデーとしました(株三六組)。「今回の呼びかけを機会に、当面は月1回ライトダウンの取り組みを独自に進めていく予定です(KOA(株)飯田工場)」会社あげての独自の取り組みもありました。

健康と環境の好循環に

「夜型の生活環境の中で、午後10時のライトダウンはとても良いことと感じました。少しずつ生活習慣を変えて行けたらと思います。保育園・学校でもこのような取り組みが進められれば一石二鳥かな?と感じました。電気の使用量は午後9時頃がピークです。早寝早起き、生活習慣を変えることは、健康にも、地球にも優しいライフスタイルです。

「ヨーロッパでは、買い物はまとめて買いをして地下へ置いておくそうです。日本以外の国では環境に対してどのような取り組みをしているか、そんな情報も市の広報などで紹介したらどうでしょうか。「紙面、机上だけではなく、今回のような具体的な行動にに取り組むことが、環境問題に対する意識変化につながります。「エコドライブやごみの分別の取り組みは広がってきましたが、ライトダウンの取り組みはこれまであまり見られませんでした。これからも定期的に広く呼びかけて取り組んでいったらよいのではないのでしょうか。これからの取り組みに対する提案もいただきました。



HP 夜の地球より

5.7t、1年続けると2,000t 削減目標の3%に

1990年比 10%、66,103t。飯田市のCO₂の削減目標です。

今回の取り組みで削減されたCO₂の推計値は、ノーマイカー通勤で4.2t、ライトダウンで1.5t計5.7t。この取り組みを一年続ければ2,000t、飯田市の削減目標の3%に達します。

小さな取り組みですが、多くの人が継続して取り組めば、まだまだ成果は上がりそうです。

「シンクローバル、アクトローカル」。私たちの日頃からの取り組みが試されます。



参加いただいた事業所

(順不同、敬称略)

アザレーミックス株、飯田クリーン(有)、飯田精密株、(株)エヌ・イー、NSKマイクロプレシジョン(株)松川工場、勝間田建設株、カムテック株、(有)カメヤマ、環境技術開発センター、北沢建設株、桐林クリーンセンター、(株)ケフィア・デイリー、(株)乾光精機製作所 飯田工場、(株)KOA 飯田工場、KOA(株)匠の里、(株)三六組、(株)TACK、田中精機株、(株)タニガワ、多摩川精機エレクトロニクス株、多摩川ロジステックス株、(財)中部電気保安協会飯田事業所、(有)福岡清掃事業所、マツカワモーターロニクス(有)、(株)丸宝計器、南信州広域連合事務局、(有)森脇精機、(株)ヨシカズ、龍共印刷(株)、(株)アース・グリーン・マネジメント、(有)アイエス精工、旭松食品株、飯田商工会議所、飯田市役所、飯田信用金庫、井坪設備工業(有)、エコトピア飯田株、オムロン飯田株、化成工業株、木下建設株、神和建設株、(株)光和、シチズン平和印精株、信南サービス株、パチンコダイエーグループ、(株)タカモリ、多摩川精機株、中部電力(株)長野支店飯田営業所、T D K 飯田株、(株)トーエネック飯田営業所、夏目光学株、南信共同アスコン株、八十二銀行飯田支店、(株)京鉄、東日本システム建設株飯田支店、(株)マエダ、三菱電機株中津川製作所飯田工場、盟和産業株、吉川建設株
ご協力ありがとうございました。

みんなで乗ろうチンチンバス 3月24日スタート

JR飯田駅 飯田市役所 動物園 川本喜八郎人形美術館 美術博物館 ...。中心市街地をチンチンバスが走ります。



名づけて「丘の上循環チンチンバス」。主催は南信州アルプスフォーラムです。同フォーラムは、「南信州合衆国の共創」をめざして1994年に発足。「素敵な地域のすてきな人探し」「丘の上とリニアを考える」「エコ」などをテーマとした活動を進めています。

バスは3月24日(土)から5月27日(日)、土日祝祭日の午前9時から午後9時まで、30分間隔で走ります。試行運転の今回、乗車賃は無料です。のぼり旗のある場所が停留所です。暖かな春の季節、家族でまちなかを散策してみませんか。

南信州アルプスフォーラムHP
<http://alpsforum.com/index.html>

【ご意見、お問合せ】【配信解除】
沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局
toshiyuki-sawawanagi@tamagawa-seiki.co.jp
木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局
ic1267@city.iida.nagano.jp



高校生たちの研究発表も 3月15日に代表者会

3月15日(木)午前10時から、飯田市環境技術開発センターで、研究会参加事業所代表者会が行われます。

今回は、高校生から環境に関わる学習の発表が行われます。

下伊那農業高校からは、環境科学基礎を学ぶ2年生、北沢早紀さん、櫻井美歩さん、高坂幸枝さんの発表です。テーマは「土地利用から探る私たちの未来～県地区の土地利用と温度環境」。

飯田長姫高校からは、建築科を今春卒業した蒲田由美さんの発表です。テーマは「自然ふれあい保育園～保育園を中心に広がる地域の輪」。

ともに環境問題の研究成果です。若者たちの考えを知るとともに、各校の人材育成の成果を知ることのできる有意義な機会にしたいものです。

今回の代表者会では以下のような議題が予定されています。「研究会の活動のあり方」「南信州いむす21」の取組状況「京都議定書発効2周年一斉行動日の集約結果」。多くの代表者の参加をお願いします。

バイオマスサミット 3月11日(日)開催

「バイオマス」は、家畜の排泄物や生ゴミ、木くずなどの動植物から生まれた、再生可能な有機資源です。地球温暖化防止や、循環型社会づくりの視点からも注目を集めています。



3月11日(日)午後4時から、伊賀良公民館でバイオマスサミットが行われます。基調講演のテーマは「バイオマス・ニッポン総合戦略の推進」。農林水産省、自然再生水深調整係長の宮崎昌さんが講師です。パネルディスカッションのテーマは「南信州におけるバイオマスの利活用について」。井口肇さん(木質ペレット製造業)、大野孝さん(アグリフューチャー上越株)、牧野光朗飯田市長と宮崎昌さんがパネラーです。コーディネータは環境市民代表の枚本育生さんです。申し込みは不要で参加費は無料です。主催は飯田市環境協議会、詳しくは飯田市環境情報HP参照

<http://www.city.iida.nagano.jp/kankyosho/index.shtml>

南信州宣言にむけて 飯田工業高校で学習会

3月5日、飯田工業高校で南信州いむす21の更新審査と、ISO学習会が行われました。



同校生徒会は2004年5月に南信州いむす21に登録。取り組み当初から、ISO 14001を目標としていました。しかし外部審査による認証は、費用の折り合いが付きません。南信州いむす21のグレードアップにあわせて、ISO 14001の規格との適合を研究会が確認する「南信州宣言」が生まれたことを受けて、改めて挑戦することになりました。

今回の研修会は、来年度中にISO 14001南信州宣言を行うための準備です。生徒会役員と、各クラスのISO委員が参加しました。役員改選期の学習会で、第1段階を踏み出しました。有効期間を2ヶ月残して南信州いむす21の更新審査を行ったのは、まず初級での更新により、腰を落ち着けてISO 14001に取り組むためです。

事業所と比べても 遜色ない取り組み

審査には佐々木考太会長ら生徒会役員と、羽場賢委員長らISO委員会が対応。O(オリジナリティ：独創)I(イマジネーション：創造)D(デバイス：工夫)E(エフォード：努力)の頭文字からとったOIDE精神を学校運営の柱としている同校では、毎月クラス単位で座光寺地域の清掃活動「OIDE清掃」を行っています。食事などで発生した廃棄物も各教室に設置しているリサイクルボックスで分別し、毎日校舎裏のリサイクルステーションに集められます。「環境にたいする取り組みは私たちの会社と同じレベルで進められています。社会に出て使える取り組みです」。審査員の感想です。

続いて行われた研修会では、「なぜ環境マネジメントシステムに取り組むか」「ISO 14001のしくみ」「自分たちにできること」について、飯田市役所、小野寺聡一さんを講師に学びました。若い力の挑戦！楽しみです。

上田で事例発表 オムロン飯田の取り組み

「適正な廃棄物管理とゼロエミッションの達成には、情報収集力が必要です。情報というのは具体的に、法規制の正しい理解だとか、法改正への早急な対応、処分(リサイクル)方法の情報、業者の情報、廃棄物の市場、社内の状況・・・というような、社内外の様々な情報です。それらの情報を確実にするには、こういった地域での連携や業者との関係などが非常に大切だと考えます。」



2月23日(金)上田市マルチメディア情報センターで、環境活動発表会が行われ、オムロン飯田株の原瞳さんが廃棄物に関する改善事例を発表しました。この事例発表会は、地元企業など84社で構成する長野県環境保全協会上小支部が開いたものですが、日頃から講演会や先進的な企業への視察など環境保全に関する活動に取り組んでいます。この日の発表会には、およそ70名の会員が訪れ、オムロン飯田株の他に、上田広域市民事業ネットワークの廃油で車を動かす取り組みと、上田市立清明小学校のほたるの復活の取り組みの事例が発表されました。

オムロン飯田株は、2006年9月に長野県環境保全協会から信州エコ大賞を受賞しており、廃棄物の適正管理や他の環境保全活動を積極的に取り組んでいます。廃棄物をまったく排出しない事業所というのはありません。廃棄物管理に関する具体的なノウハウや、ゼロエミッション達成までの改善事例の紹介は、同じ課題を持つ事業所にとって活動の参考になったことと思います。



【ご意見、お問合せ】【配信解除】
沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局
toshiyuki-sawayanagi@tamagawa-seiki.co.jp
木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局
ic1267@city.iida.nagano.jp



バイオマスで地域も再生 バイオマスサミットinいいただ

「農地の保全と農業の振興、日本の取り組みは、地球温暖化防止など国際的な動きを見据えながらも、異なる視点を持っていることが特徴です」。

バイオマスは「動植物から生まれた、再生可能な有機性資源」です。家畜排泄物や生ゴミ、下水汚泥などの「廃棄物系バイオマス」、林地残材、稲わら、もみがらなど「未利用バイオマス」、サトウキビ、米、なたねなどの「資源作物」。3つの種類があります。

バイオマスの有効利用で、地域活性化を。「バイオマスサミットinいいただ」が3月11日(日)午後4時から、伊賀良公民館を会場に開催されました。主催は飯田市環境協議会です。



冒頭は基調講演講師、宮崎昌さんの講演からの引用です。宮崎さんは、農林水産省大臣官房環境政策課資源循環室、自然再生調整係長です。

「私たちがバイオマスを進めるのは、何よりも農地を有効利用することが目的です。近年は、農業従事者、耕作面積とも減少することで、荒廃農地が増加しています。取り組むことで、農地が保全される。『食糧自給力の確保』という考え方です。ブラジルでは、さとうきびから作りだした無水バイオエタノールが、ガソリンに25%混入され、国内で走るガソリン車用の燃料として使用されています。バイオマスは21世紀の大切な資源として注目されています。

農林水産省では、「自然の恵みでニッポン再生」をキャッチフレーズに「バイオマス・ニッポン総合戦略」を進めています。実行の柱は、「バイオマス・タウン構想」。廃棄物系バイオマス90%以上、未利用系バイオマス40%以上など、バイオマスの積極的な利活用を進める構想をつくった全国の市町村をバイオマス・タウンとして認定、公表します。バイオマス・タウンは2007年1月末日現在67。2010年までに500に広げることが目標です。



純国産資源の米を原料に

「バイオマスは『燃料』『エネルギー』『製品材料』として使われます。燃料やエネルギーには、大規模な投資が必要です。小さな会社でやるなら製品材料と考えました」。アグリフューチャー上越株の大野孝さんは、バイオマスプラスチックの生産を進めています。材料は米。「米は国内最大の生産作物。年間20tの剰余米も生まれます。剰余米はいざというときに蓄えとして必要な米。古くなった米をバイオマスとして活用するしくみをつくることで、食糧自給とともにエネルギー自給につながります。米は外国に依存しない、純国産のバイオマス資源です」。トレー、食器、プランターなど多様な製品が作られています。

木質バイオと堆肥センター 飯田の取り組みから

「森林整備などで発生する、林地残材をペレット化し、ストーブやボイラーの原料にしようと、地元5社で南信バイオマス協同組合を設立しました。平成17年度から生産を開始。18年度の生産量は7万t。収益性を考えるともっと増産できる体制が必要です。安定した価格で販売できるよう、行政の支援を期待しています」。組合代表理事、井口肇さんの発言です。

「『生ゴミの焼却や家畜排泄物・キノコの廃培地の野積み・素ぼり処理による環境負荷の低減』『化学肥料や農薬の多投で収量が低下している農地の地力再生』『地域内の食農循環の再構築』。これらの課題を解決するために平成16年6月、飯田市堆肥センターは生まれました。センターを運営する(有)いいただ有機は、地元大原酪農組合、みなみ信州農業協同組合、飯田市が出資した法人です。中心市街地3100世帯の生ゴミや、家畜排泄物、きのこの廃培地など23トンが一日の処理量です。生ゴミの適正な分別、堆肥としての信頼確保など課題はたくさんありましたが、市民、事業者、行政のパートナーシップで乗り切って現在に至りました」。牧野光朗飯田市長の発言です。

バイオマス・タウンいいただ。飯田の新しい顔として期待されます。



自然エネ省エネ起業講座 3日目は公開で

3月16日(金)から18日(日)まで、飯田市民館で自然エネルギー省エネルギー起業講座が行われます。主催はNPO法人南信州おひさま進歩。昨年に続き2回目の開講です。すでに定員に達していますが、最終日の講座は公開で行われます。この公開講座の日程は次のとおり。

- 9:00 牧野光朗飯田市長の講演「『総合的アプローチ』と『多様な主体(市民参加)』による地域自立化への挑戦」。
- 10:15 市民バンク代表片岡勝さんの講演「起業を通じて自己実現」。
- 13:00 2日間の講座を通して参加者が練り上げたビジネスプランの発表と講評。

詳しくは南信州おひさま進歩まで。
<http://www.ohisama-shinpo.or.jp/index.html>

川本喜八郎人形美術館 3月25日にオープン

「三国志」「死者の書」などの人形アニメで知られ、日本を代表する国際的な人形美術家、川本喜八郎さんの製作した人形を収蔵展示する川本喜八郎人形美術館が3月25日にオープンします。



1979年から開催されてきた「人形劇カーニバル飯田」は、2000年には「いいただ人形劇フェスタ」となり、昨年までで通算28回を数える、国内最大級の人形劇の祭典です。黒田人形、今田人形など古くからの人形芝居が残る飯田の風土に共感された川本さんが、自身の作品を飯田市に寄贈することとなり、美術館の建設に至りました。

飯田の新しいシンボルが誕生します。当日は「チンチンバス」も運行します。

ご家族で飯田のまちなか観光を楽しんでみませんか。詳しくは以下HPを。
<http://www.city.iida.nagano.jp/puppet/kawamoto/>

【ご意見、お問合せ】【配信解除】
 沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局
 p05300@tamagawa-seiki.co.jp
 木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局
 ic1267@city.iida.nagano.jp



黒岩恒彦氏(オムロン飯田) 白金義康氏(三菱電機) 副代表を選出し機能強化へ

「研究会が生まれて10年、発足時の6事業所から現在の30にまで拡大しました。環境問題はますます重要となっています。研究会の取り組みも報道などでたびたび取り上げられ、注目を集めるようになりました。会の体制強化のために、副代表の選任を提案します。」



3月15日(木)、飯田市環境技術開発センターで、地域ぐるみ環境ISO研究会、事業所代表者全体会が行われました。冒頭の萩本代表による提案を受けて2人の副代表が選任されました。

オムロン飯田株式会社、代表取締役社長の黒岩恒彦さんと、三菱電機株式会社中津川製作所飯田工場長の白金義康さんです。

地域に広げるために 力を尽くしたい

「地球環境問題は地球全体のリスクといわれていますが、南信州の地にもその影響が現れています。りんごが赤く色づくのが遅くなってきたといわれます。名産の市田柿も、干している途中にかびが発生するケースがあるようです。研究会の目指すところは、会の活動を地域や家庭、個人に広げるところにあります。企業としての取り組みが地域全体の取り組みに広がるよう、力を尽くします。」(黒岩副代表)



「研究会の活動が地域と結びつき、着実に発展している現在、活動の一翼を担う重責をいただいたことは光栄です。次の世代に豊かな環境と、美しい飯田を渡していくことができるよう役立ちたいと思います。」(白金副代表)「環境に取り組む2つの視点を学びました。一つは失われつつある活動をどのようにして元の状態に戻すか。もう一つは、企業活動の中で環境をどのように両立させるか。そのための『しかけ』『継続』『次世代への伝承』が大事であることを学びました。」(同：12月4日あしたのまち・くらしづくり活動賞、振興奨励賞、授賞式の参加報告より)



新体制の船出の日となりました。

悩み事相談会で 事業所のレベルアップを

「研究会に参加することで、自社の環境の取り組みをレベルアップする。発足当初の研究会の目的です。初心に返り、参加事業所の活動がレベルアップするためのとりくみを」。昨年9月の代表者会の提案を受けて、実務者会、事務局会議で検討を進めてきました。



2007年度は「悩み事相談会」を定例で開催します。すでに1月23日(水)、オムロン飯田㈱で相談会を試行しました。「環境影響評価、法的及びその他の要求事項、目的目標及び実施計画、4.3の計画部分をコンパクトにして1枚にまとめることで、わかりやすくし、現場ごとの取り組みを活性化したい」。全従業員がEMSに参加するための事例が報告されるなど、実り多い話し合いとなりました。各事業所から持ち寄ったテーマに基づく「悩み事相談会」、これからは悩み事があるときは気軽に事務局までご相談ください。

審査員の確保と養成を 南信州いむす21

昨年6月、南信州いむす21グレードアップ版の運用が始まりました。7、8月にグレードアップ後初めての更新審査が集中。ほとんどの審査員がグレードアップ後の審査を経験したことを受けて実務者会を行い、システムの課題が話し合われました。「環境影響評価などEMS独特の専門用語の説明をわかりやすく」「環境影響評価や目的目標、実行計画などPIに関わる見本の書式があると取り組みやすい」「審査用チェックリストの使い方、審査結果の判定方法の統一が必要」。それらの意見を受けて、審査方法を中心に手直しを進めてきました。

ISO14001南信州宣言の審査は2日間を費やしました。取り組みが広がることで、研究会から派遣する審査員の労力も増えています。特に南信州宣言の審査員の条件は、環境マネジメントシステム審査員有資格者です。審査員の確保と養成が課題です。

京都議定書の目標達成に向けてさらなる工夫を

2月16日(金)、京都議定書発行2周年を記念して、ノーマイカー通勤と、午後10時ライトダウンの斉行動を呼びかけました。59事業所5,636人が参加し、CO2換算で5.7tの削減効果につながりました。環境問題について話合った家族、6時に斉退社を行った事業所など、独自の取り組みも報告されました。初めて試みたライトダウンも、これからも続けたいという積極的な評価をいただきました。

議定書発効の初年度は研究会事業所一斉で啓発文書を読み合わせました。昨年は地球温暖化防止行動のアンケートをインターネットで行いました。2月16日を記念した取り組みが、次に広がるように、来年以降の取り組みに対しても、一層工夫した取り組みが進められるよう、期待の声もいただきました。

統合的なアプローチで 地域づくりを

「代表者会の冒頭の、下伊那農業高校と長姫高校の皆さんの発表は、質が高く中味のある内容で、地域を愛する心も強く感じられ、大変感動しました。次代を担う若者たちのこのような話を聞く今回の企画はとてすばらしかったと思います。来年度の飯田市は『住み続けたい 住んでみたいまち 飯田 人も自然も輝く 文化経済自立都市』の実現をめざした第5次基本構想基本計画がスタートします。経済自立度70%達成に向けた地域経済活性化プログラム2007も動き出しています。自治基本条例の施行、地域自治組織の発足など新たな市民自治のしくみもできました。これらの動きを実現するために行政は、縦割り型の仕事から、テーマに応じ、行政だけでなく、多様な主体がともに課題解決のために協働する、『統合的なアプローチ』という考え方で仕事を進めることが必要です。異業種によるこの研究会のような活動を手本とし、統合的な取り組みを通して、南信州の地が一層パワーアップすることを期待します」。牧野光朗飯田市長のまとめのことばです。



*高校生の発表は次号に特集します。
【ご意見、お問合せ】【配信解除】
沢柳俊之(多摩川群青織機) 研究会事務局
p05300@tamagawa-seiki.co.jp
木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局
ic1267@city.iida.nagano.jp



高校生の心意気 下農、長姫生徒の発表から

「今回の研究を通して私たちは、他人事のように感じてきた地球環境の問題を、身近な問題としてとらえることができるようになりました。...『地球温暖化は深刻な問題だ』ということばを、知識として知っているだけではないだろうか。『誰かがやるさ』と思っているのではないだろうか...行動を改めてくれる人が増えてほしい。地球温暖化はみんなの問題だと理解してもらいたい。地球温暖化は決して遠い未来の問題ではなく、いま、ここで、現実起きています。」



3月15日(木)地域ぐるみ環境ISO研究会代表者会で、高校生の発表が行われました。

発表者は、下伊那農業高校で環境学基礎を学ぶ2年生、北沢早紀さん、櫻井美歩さん、高坂幸枝さんと、今春飯田長姫高校を卒業する蒲亜由美さんです。下伊那農業高校生のテーマは「土地利用から探る私たちの未来～県地区の土地利用と温度環境」。飯田長姫高校の蒲さんは「自然ふれあい保育園～保育園を中心に広がる地域の輪」です。

冒頭は、下伊那農業高校の生徒の皆さんによる、まとめのことばです。

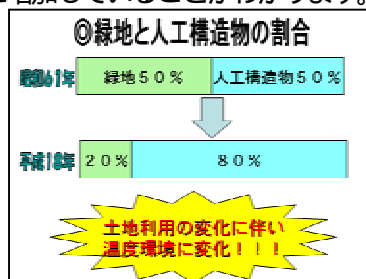
公民館主事がつないだ縁

下伊那農業高校の3人は、飯田市民館が主催する、高校生講座の受講生です。同校で環境科学基礎を学んでいた3人は、自分たちの研究成果をぜひ地域の人たちに伝えたいという思いがあり、飯田市民館主事の塩澤さんがつなぎ役となり今回の発表に至りました。飯田長姫高校の蒲さんは飯田市民館主事会が進める「総合教育支援プロジェクト」の紹介です。このプロジェクトは小中高生たちの学習を社会教育の立場から支援することが目的です。飯田長姫高校の生徒たちによる1年間の研究発表会に参加し、蒲さんの話に感銘し、ぜひ地域の人たちにも聞いてもらう機会をつくりたいということから事業所代表者会の発表につながりました。

地域で考える地球温暖化 土地利用と温度環境の関係

下伊那農業高校は、県名古熊地区の土地利用の移り変わり、温度の関係を調査しました。土地利用調査は平成16年から18年の3年間、温度分布調査は昭和61年と平成17年、地域住民や地域内の在校生、職員への意識調査は平成17年に行いました。

調査の結果、昭和61年から平成18年までの20年間で、緑地は50%から20%まで減少。道路住宅など人口構造物のある土地は50%から80%と大幅に増加していることがわかります。



温度分布調査は、土地の種類ごとに地表面と地上1.5mの温度の違いを測定しました。道路の場合、地上温度36度にたいし地表面は45度と9度も上昇。水田は、地上温度が32度にたいし地表面24度と8度低くなります。地上温度が33度以上となったのは宅地、店舗、駐車場、道路、その他建築物ですべて人口構造物のある土地です。33度未満は水田、畑、林、木陰と緑地です。33度を境とした高温域の土地は昭和61年の39.2%から69.6%まで大幅に増加しています。

道路改良と周辺の開発、農業従事者の減少が、土地利用の様子を変え、温度の上昇にもつながっていることがわかります。

意識調査はこれらの調査結果を調査相手に伝えながら、土地利用の変化や地球温暖化について聞き取りました。20年間の急速な土地利用については賛否それぞれの考えがありましたが、地球温暖化にたいしては、多くの回答者が深刻であると受け止め、土地利用の変化と地球温暖化の間にもつながりがあると認めています。

「地産地消を進めることで緑地を確保する。そのために市田柿のお菓子作りなど農産物に付加価値を生む取り組みを進める」「地域に花いっぱい運動を広げる」「研究成果を地域の方たちに伝える」。最後に温暖化防止に向けて農業高校の生徒としてできることをまとめています。

自然やお年寄りと ふれあえる保育園づくり

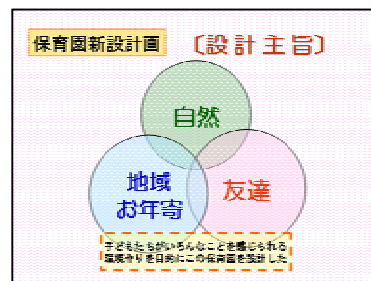
下伊那郡松川町城山地区にある老人福祉センター。周囲は手の加えられていない自然が多く残っています。



発表内容は、この地に保育園を建設する提案です。

老人福祉センターの利用が少ないことやせつかくの自然が荒れていることから、保育園を建設し、周囲の自然を生かして、お年寄りとも交流できる機能を加えることで、有効活用しようという考えです。

「里山をかけまわる子どもたちは、自然を感じる心を養い、老人福祉センターを利用するお年寄りとの交流の中で、子どもたちはお年寄りの知恵をもらい、お年寄りは子どもたちから元気をもらいます。また、友だちや先生といっしょに、集団生活の中で、自立や自発を学びます。」「自然」「地域のお年寄り」「友だち」の3つを軸にした設計主旨です。



職員、園児、未満児それぞれの行動や、子どもたちの安全を確保する職員の目線から動線計画を立案。どの部屋でも太陽の光を浴びることができる日光採光計画。園庭、駐車場、道路など建物周囲とのつながり。大変綿密な建設計画です。

涙が出るほど感動しました

「胸が詰まってことばになりません。農業や建築の分野から、若い人たちが、ここまで地域のことをしっかり考えていてくれることを知り、感動しました。ぜひこれからもがんばってください」。萩本代表の感想です。

高校生とつながった今回の事業所代表者会。これからの広がりも期待されます。

【ご意見、お問合せ】【配信解除】
沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局
toshiyuki-sawayanagi@tamagawa-seiki.co.jp
木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局
ic1267@city.iida.nagano.jp



㈱イダサービスに登録証 南信州いむす21中級

「南信州いむす21は、本年度から事業所の取り組みにあわせてレベルアップに取り組むことができるよう、初級、中級、上級の3段階となりました。上級に取り組む事業所はまだなく、中級も5事業所です。中級に登録されたイダサービスは、地域を代表する取り組みを進めています。これからも地域ぐるみの環境改善活動の推進役として、がんばってください。



3月29日(木)㈱イダサービスに南信州いむす21中級の登録証が交付されました。前回の初級から中級へレベルを上げた取り組みです。

「社長の環境にたいする意識が社員全員に浸透し、全社員参加の取り組みに広がっています。半年ごとに環境保全の担当を変えることで、誰がどの担当になっても役割が遂行でき、社員教育もしっかりできています。自社で排出した廃油をリユースしてストーブの燃料とする取り組みは、まねのできない進んだ取り組みです。油を毎日使用する仕事であるにもかかわらず、においやこぼれ、シミなども全くなく、ごみの分別もきちんとし、すばらしい職場環境です。環境側面の抽出段階で、事務用品やOA用紙のグリーン調達など、環境に与える良い影響も考慮されており、上級レベルに近い内容です」(審査結果報告書より)。

飯田市上郷飯沼地区では、事業所有志で飯沼地区環境保全対策協議会を組織。事業所から排出される水質の管理を中心に、共同で環境保全対策を進めています。同社は協議会の中心として環境問題に取り組んでいます。

「当社は昭和51年以来、飯沼地域の事業所に呼びかけながら、公害防止の活動に取り組んできました。南信州いむす21の取り組みも、協議会全体で進めています。環境改善の取り組みをこれから一層広げていきたいと思えます」同社社長の林麓さんのことばです。

南信州いむす21、2007年3月29日現在の登録は、初級48、中級5、ISO 14001南信州宣言1となりました。

ISO14001を共通言語に 地域と連携を 信州大学工学部の取り組み

「市民、企業、学校、自治体。地域の様々な組織が連携するための共通言語として、ISO 14001は有効です。21世紀は環境の世紀。ISO 14001で同じ価値観を共有し、『環境ハイウェイ』を進みましょう。」



3月18日(金)飯田市竜丘公民館で省エネ住宅研究セミナーが開催されました。主催は飯田市環境協議会です。セミナーの基調講演のテーマは「環境マネジメントシステムについて～大学のISO 14001:持続可能な地域発展へ」。講師は信州大学工学部環境機能工学科、北澤君義教授です。冒頭は北澤教授のまとめのことばです。

信州大学工学部は2001年5月にISO 14001を認証取得。エコキャンパスの活動と、地域と連携した活動で、2005年度日本環境経営大賞環境連携賞、2006年度地球環境大賞優秀環境大学賞を受賞。

単位の一環として内部監査員の養成講座を実施。すでに1,000人の内部監査員を養成しています。外部審査やトップインタビューは公開し、講座形式で実施。長野市役所やコブながの内部監査には、飯田市役所と同様に内部監査員同士が行き来する、相互内部監査も実施しています。環境にやさしい社会を実現するために、06年度からは、学部ごとに大学をあげてISO 14001に取り組んでいます。環境マネジメントシステムの取り組みを基礎にして、環境マインドをもった文化人、研究者、技術者、教師、経済人、医師を育てる取り組みも進めています。

工学部では、研究で使用する薬品を管理する「IASO(薬品管理システム)」を構築。キャンパスの排水をおいしい水に戻すため「排水水質改善研究」を進めています。教育学部では、環境教育の教材づくり、農学部ではキャンパス内の食堂から排出する生ゴミの堆肥化に取り組むなど、大学や学部ならではの、特徴的な取り組みも進めています。

私たち研究会の活動と共通点の多い取り組みです。インターンシップなどぜひ連携したい相手です。

全国さくらシンポジウム 4月9～10日飯田で開催

2007全国さくらシンポジウムが、4月9日(月)10日(火)飯田文化会館で行われます。このシンポジウムは全国の桜研究者や学識経験者、桜愛好家が桜の名所を持つ自治体に呼びかけて、1982年から毎年開催されています。



9日(月)は午後1時から開催。開会式終了後、ジャーナリストの見城美枝子さんによる基調講演「桜色のあるまちづくり」が行われます。午後3時から全国各地の活動報告です。「桜保存会活動の連携」(置賜さくら会会長、柴田正夫さん)「環境と桜の古木の樹勢」(財団法人日本花の会主任研究員、和田博幸さん)「飯田地方のさくらレビュー」(地域団体の活動報告)。コメントーターは名桜大学教授・琉球大学名誉教授の比嘉照夫さんです。

午後9時からは市内名桜特別鑑賞企画。3つのコースに分かれ、黄梅院の枝垂れ桜、安富桜、麻績の里舞台桜・石塚桜など、ライトアップされた夜桜を鑑賞するバスツアーです。

10日(火)は6時から朝の散歩を兼ねた市街地の桜をめぐる早朝桜コース。9時から天竜峡コース、市街地コース、麻績の里コースの現地見学です。

例年より早いといわれる開花予想でしたが、最近の冷え込みで見頃の時期に重なりそうです。春の南信州で、桜の風情を楽しんでみませんか。シンポジウムの詳細は、以下HP参照。

<http://www.city.iida.nagano.jp/ecotur/ssinpo/ssinpo1.html>

桜ジェラード誕生

桜ジェラードが誕生しました。鼎上山(有)パルカが製造、龍江Deco販売です。1つ250円、パルカと天竜峡「こやどう」、インターネットでも販売します。おりしもさくらシンポジウムと重なりました。春の訪れを味覚で感じてみませんか。



【ご意見、お問合せ】【配信解除】
沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局
toshiyuki-sawayanagi@tamagawa-seiki.co.jp
木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局
ic1267@city.iida.nagano.jp



市政70周年の節目に 環境文化都市宣言



私たち飯田市民は、地球環境問題が人類共通の課題であることに着目し、人と自然の関わりを見つめ直して日々の生活から産業活動まですべての営みが自然と調和するまちづくりに、先駆的に取り組んできました。

自然環境や生活環境などを取り巻く状況の厳しさの度を増している今日、「持続可能性」と「循環」を基本にして自分たちのライフスタイルから社会の有り様に至るまでを改めて見直し、「環境に配慮する」日常の活動を「環境を優先する」段階へと発展させながら、新たな価値観や文化の創造へと高めていく必要があります。

私たちは、かけがえのない地球にある生態系の中で自然と共生する地球市民の一員としての原点に立ち返り、先人から受け継いだ美しい自然環境と多様で豊かな文化を活かしながら、市民、事業者、行政など多様な主体の積極的な参加と行動によって人も自然も輝く個性ある飯田市を築くことを誓い、ここに「環境文化都市」を宣言します。

1937年(昭和12年)4月1日飯田・上飯田両町が合併し飯田市は誕生しました。今年が市政が誕生して70年目の記念の年です。

冒頭は3月23日の飯田市議会で議決された「環境文化都市宣言」です。

3月31日飯田文化会館で、飯田市制施行70周年記念式典が行われました。環境文化都市宣言はこの記念式典の場で披露されました。

2007年4月にスタートする飯田市の第5次基本構想基本計画で、10年後の目指す都市像を「住み続けたいまち住んでみたいまち 飯田 人も自然も輝く文化経済自立都市」と定めました。

第4次基本構想基本計画で定めた「環境文化都市」を、市民、事業者、行政が、超長期的に目指す都市像としてともに確認するために行われたのが「環境文化都市宣言」です。

若林正俊環境大臣からは 熱いエールが

「飯田市は美しい自然に恵まれ、自然と人が共生し、歴史や伝統的な文化を創り上げてきた大変すばらしいまちです。戦後直後の大火など、様々な困難を克服し、協同の力で築き上げてきた先人の皆さんの営みに、心から敬意を表します。



飯田の語源は『結いの田』ともいわれます。市民と行政が一体となり、参加型でまちづくりを進めてきたことが飯田市の特徴です。

人と自然との共生や、地球環境を守ろうという、努力と成果にたいし、それらの取り組みが飯田発であることを、環境大臣として誇りに思います。

地球環境問題は、ますます危機的な状況となっています。地球環境の悪化を阻止する先導役として、進取の気質で市民、産業界、議会、行政が共に歩む飯田市のこれからのますます期待しています。」

来賓として参加された若林正俊環境大臣から熱いエールが送られました。

公民館活動で蓄積された 地域の力から学ぶ

「この地方には、高度経済成長の中で他の地域では消えていった教育力があります。それは公民館運動によって蓄積された、地域を愛する力、子どもを育てる力です。それは持続可能な地域をつくるために必要な力です。そしてこの地が東西の文化が交流する場所であったことで、多様な文化が育ち、教育や文化として蓄積されてきました。多様性は新しいものを創造し、発展させるための力です。審議会7回、市民検討会議27回、職員による会議187回、そして議会では23回の会議を積み重ね、第5次基本構想基本計画は策定されました。多様な考えを認め合うこと、この地ならではのこだわりを持つこと、結いの風土。基本構想基本計画の策定に参加し、市民参加型のまちづくりを飯田から学ぶ機会となりました。」



学校法人立命館常務理事で、飯田市の第5次基本構想審議会会長、林堅太郎さんの基調講演からの引用です。

3人の市民から、新しいまちづくりのメッセージが

式典に引き続いて行われた記念行事は、「新しいまちづくりへのメッセージ」です。林堅太郎さんの基調講演に引き続き、3人の登壇者から、思いを込めたメッセージが届けられました。

「僕の夢は、誰もが安心して住み続けることができるために、飯田で福祉の仕事に就くことです。基本構想基本計画づくりで話し合われた住民の声をさらに発展させることができるよう、これから4年間はまず学び、そして飯田に戻り、まちづくりの続きに関わりたいと思います。」第5次基本構想基本計画市民策定委員の最年少、唯一高校生として参加した中島祐貴くんの発言です。中島君は4月から日本福祉大学に進学し、福祉を学びます。



「自治基本条例では、市民を、そこに住む人だけでなく、市内で働く人、学ぶ人、そして市内で活動する人にまで広げて定義しました。私自身も阿智村に住みますが、飯田で仕事をしています。市民ということばを広くとらえた意味をよく考え、多様な市民の参加によって、飯田を支えていくという視点が必要です。」わがまちの憲法を考ふる市民会議議長、高坂詢さんの発言です。



「飯田でも、時代とともに人と人とのつながりが薄くなってきました。高齢化が進み、地域の担い手少なくなってきました。これまでの縦割り型の組織では地域を支えきれなくなっています。4月から導入された地域自治組織が、それぞれの地域の特色を生かして元気に活動することが、飯田市の元気になることにつながります。」飯田市連合自治会会長、関口節三さんの発言です。



登壇者の発言に共通する「環境」と「自治」。2007年度、「地域」からはじまる、「市民」による「自治」的な取り組みが一層盛んとなる節目となることを期待されます。

【ご意見、お問合せ】【配信解除】
沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局
toshiyuki-sawayanagi@tamagawa-seiki.co.jp
木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局
ic1267@city.iida.nagano.jp



(株)原鉄が会長賞を受賞 生ゴミ処理循環システムで

食品リサイクル法では、食品廃棄物の「発生の抑制」「再生利用」「減量」に取り組むことをまとめて、再生利用等といえます。

まず生産、流通、消費の各段階で食品廃棄物そのものの発生を抑制します。次に、再資源化できるものは肥料や飼料などへの再生利用します。さらに、廃棄されるものは脱水・乾燥などで減量して処分がしやすいようにします。

3月14日、食品廃棄物リサイクル機器連絡協議会が主催する、食品リサイクル推進功労者表彰で、研究会メンバーで建設リースを営む株式会社原鉄が、会長賞を受賞しました。



同社は、建設機械レンタル業界では日本で初めて ISO9000 を取得しました。

食品廃棄物リサイクル協議会は、食品循環型社会の推進を目的とした活動を進めています。

「回収(生ゴミ処理機設置先より一次処理物の回収)」「堆肥化(堆肥センターにて、分別・二次発酵)」「設置先へ返納(機械設置先又は契約農家へ堆肥を販売)」「生産(この堆肥を使って、野菜・お米などを生産)」「販売協力(できた野菜・お米などを販売)」「回収...。同社の取り組む、食品循環システムです。

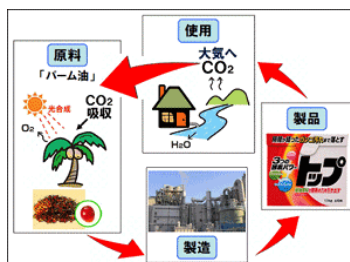
販売先から回収～生産～回収という自社単独で一連の循環型システムを構築した事例は先駆的です。

学校・病院・老人施設へは、回収した生ゴミから生産した改良材(堆肥)1,000袋を無償で提供しています。また地元 高森町の牛牧農産物直売所や、伊那西の小出ファームなどの協力で農家に改良材を販売。松本のハマ園芸では野菜作りに利用しています。

抗生物質が入らない、安心・安全な改良材。家庭や企業の生ゴミ処理に、同社の食品循環型システムを活かしてみませんか。

CO₂を47%削減した ライオンの取り組み 第16回地球環境大賞

洗浄力と生分解性に優れた植物原料「MES(アルファスルホ脂肪酸エステル塩)」を世界で初めて工業化、衣料用洗剤の洗浄成分を、石油原料から植物原料へ転換し、洗濯によって家庭から排出されるCO₂を、1990年比で47%削減させることに成功。



4月12日(木)明治記念館で、第16回地球環境大賞の授賞式が行われました。主催はフジサンケイグループ。

今年の大賞は株式会社ライオンが受賞。冒頭は同社の取り組む環境改善活動のうち、「商品を通じた環境配慮」の中心的な取り組みです。ライオンは、持続可能な循環型社会を実現にむけた「環境対応先進企業」をめざし、「温暖化ガス排出量の削減」「資源の循環的・有効活用」「商品を通じた環境配慮」「化学物質の安全管理」「社内の環境意識醸成」を5つの柱とする「ECO LION」活動に取り組んでいます。

地域ぐるみ環境ISO研究会は、第13回環境市民グループ賞を受賞。先進的な企業、市民グループ、自治体の取り組みを学び、交流することを目的に、授賞式に参加しています。今回研究会からは飯田市の福田富廣収入役が代表参加しました。

授賞式には毎年、財団法人世界自然保護基金ジャパン(WWF ジャパン)名誉総裁の秋篠宮殿下、同妃殿下も臨席。参加者とのご懇談の機会も設けられました。

市民グループや自治体は、新たに設けられた環境地域貢献賞を受賞。受賞団体は、下水消化ガスを生成して都市ガス化し、CO₂の発生量を大幅に削減した金沢市。農家と一体となって四方十川の清流を守る活動を進める愛媛県立北宇和高等学校(高校としては初)。世界自然遺産・白神山地のブナ林修復に取り組む白神山地を守る会です。

研究会の取り組みのステップアップのためにも、ぜひつながりを続けたい機会です。

春の飯田を歩いて楽しむ 飯田やまびこマーチ開催

今年で21回目を迎える飯田やまびこマーチが4月28日(土)29日(日)に開催されます。

全国各地のウォーカーの交流を図ることを目的に設立された日本マーチングリーグ(JML)。JMLが公式に認めた大会は、北海道から沖縄まで、現在15あります。飯田やまびこマーチはこのうち、埼玉県東松山市で行われる日本スリーデーマーチに次いで2番目の歴史を誇る伝統ある大会です。

昨年は開会行事にフィギアスケートの浅田舞、真央姉妹も参加。5,400人の参加者でにぎわいました。

28日(土)は、「名勝天竜峡までの起伏に富んだ市内一周コース(40km)」「南アルプスを正面に、河岸段丘を下るコース(20km)」「自然に親しむ公園めぐりコース(10km)」「飯田の風情を楽しむコース(5km)」。

29日(日)は、「眼下に広がるりんごの花の絨毯を堪能し、田園をめぐりコース(40km)」「飯田市から高森町へ田園地帯をめぐりコース(20km)」「人形浄瑠璃の里・黒田コース(10km)」「飯田市街と子どもの森公園をめぐり親子で楽しむコース(5km)」など、参加者の体力や興味に応じた多様なコースが用意されています。

大会資料に名前が掲載される正式参加の締め切りは終了しましたが、これからの参加も可能です。桜の盛りは過ぎましたが、りんごの花の咲く季節です。緑豊かな飯田の春をご家族友人誘い合って、歩いて楽しみませんか。



詳しくは以下HPを参照ください。
<http://www.city.iida.nagano.jp/spor-ts/yamabiko/index.htm>

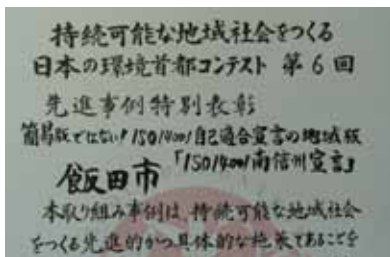
【ご意見、お問合せ】【配信解除】
沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局
toshiyuki-sawayanagi@tamagawa-seiki.co.jp
木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局
ic1267@city.iida.nagano.jp



南信州宣言が先進事例表彰 06年度環境首都コンテスト

「環境マネジメントシステムの国際規格であるISO14001は、社会経済活動とのバランスの中で環境保全及び汚染の予防を目的としたもの。このISO14001の基本的な取り組みを簡易なシステムとして展開する環境改善活動が、『南信州 いむす 21』で、第1回先進事例集に掲載された。飯田市はかねてより『地域ぐるみ環境ISO研究会』を事業者とともに組織し、ISOの相互内部監査などに取り組んできた。当初は種類しかなかったが、地域の事業者の取り組みレベルの向上とともに、多様な取り組みレベルに対応できるように初級・中級・上級という区分を設けるように発展(2006年4月～)。同時に、簡易版ではないISO14001の自己宣言まで地域ぐるみでやっつけてしまおうというのがこの『ISO14001南信州宣言』。ステップアップを目指せるようになった。仕組みとしては、事業所が区分に応じた取り組みを行なっていることを地域ぐるみ環境ISO研究会が審査し、南信州広域連合が登録判定を行う。また、ISO14001南信州宣言は国際規格に位置付けられる「自己宣言」を、南信州広域連合と研究会が確認する。そもそも飯田市が自己宣言を行ったのも、当初より自治体が地域のパイオニアになるという狙いがあった。今回やっとサポートの仕組みを整えることができた。…」

地域ぐるみ環境ISO研究会が構築したISO14001南信州宣言の取り組みが、環境首都コンテストの先進事例表彰を受賞しました。冒頭は、先進事例集に紹介されるレポートからの抜粋です。



「持続可能な地域社会をつくる、日本の環境首都コンテスト」は、1990年代ドイツで始まった取り組みがモデルです。環境NGOがドイツ国内自治体を評価する試みを、日本の環境NGOが参考とし、2001年度より始めました。

飯田市は総合5位に躍進

今年で第6回目を迎える2006年度環境首都コンテストで、飯田市は総合第5位となりました。

また、人口別(10万～30万)では2位となり、「議会議長の自治基本条例」「簡単版ではない! ISO 14001自己適合宣言の地域版『南信州宣言』」が先進事例表彰を受けました。

4月18日(水)環境首都コンテストの授賞式が飯田市役所で行われ、環境首都コンテストを主催する、環境市民代表理事の枚本育生さんから、牧野光朗飯田市長と熊谷富夫飯田市議会議長に表彰状が手渡されました。また南信州宣言の表彰状は、牧野市長が広域連合長として受け取りました。



コンテスト開催の主旨は、地球規模で深刻化する環境問題にたいし、基礎自治体が持続可能な地域社会を実現するための、広い意味の「環境視点」で、どのような政策や取り組みを進めているかを評価するものです。

環境首都となる条件は「コンテストで総合1位となること」「総合点が満点の70%以上であること」「質問項目15項目のうち、3項目以上が満点の90%以上であること」「15項目中満点の50%以下が、3項目以下であること」すべての条件を満たすことです。

2006年度環境首都コンテストには、国内74自治体が参加。コンテスト第1位は北九州市でしたが、上記の条件をすべて満たすには至らず、コンテスト開始以来、環境首都の称号を受ける自治体はまだ誕生していません。

地球規模で環境問題が深刻化する中、持続可能な地域づくりに向けて、環境首都コンテストに参加する自治体の取り組みも改革が進んでいます。上位10位の自治体は、昨年比べて大幅に得点を伸ばしています。北九州市や水俣市は、あと一歩で環境首都の要件を満たすところまで来ています。その中で飯田市が5位となったことは大きな前進といえます。

多様な先進事例が飯田の特徴 ～ぐるみ通信も選出

2006年度飯田市の取り組みで特に高く評価されたのは「パートナーシップ(得点率82.4%)」と「環境マネジメントシステム(同82.0%)」。地域ぐるみ環境ISO研究会の活動に代表される、市民や事業所主体の環境改善の取り組みが評価されました。

また飯田の特徴は、先進事例として紹介される取り組みの多さです。2006年度環境首都コンテストの結果報告の別冊として作成される「先進事例集」。今回は66の事例が紹介されますが、このうち飯田からは7つの事例が紹介されています。総合1位の北九州市でも先進事例は4例ですから、個別具体的な取り組みでは、飯田市は環境首都コンテストに参加する自治体の中でも群を抜いています。

ぐるみ通信も、研究会の機関誌としての役割とともに、環境や地域の情報を全国に発信するユニークなメルマガとして先進事例に選ばれました。他にも「飯伊婦人文庫」「よこね田んぼ保全事業」「地域と連携して取り組むノーマイカーデー」「自然エネルギー普及のため出資を盛り込んだ『飯田市まほろば事業』」が選ばれました。

2006年度の結果は以下の通りです。

第1位	北九州市(福岡県)
第2位	水俣市(熊本県)
第3位	新城市(愛知県)
第4位	安城市(愛知県)
第5位	宇部市(山口県) 同点
第5位	飯田市(長野県) 同点
第7位	多治見市(岐阜県)
第8位	板橋区(東京都)
第9位	尼崎市(兵庫県) 同点
第9位	熊本市(熊本県) 同点

研究会の活動に代表される、市民や事業所が起点となった、地域ぐるみの活動の広がりが、持続可能な地域をつくる鍵となりそうです。

環境首都コンテストについての詳細は、環境市民のHPをご参照ください。

<http://www.kankyoshimin.org/index.html>

【ご意見、お問合せ】【配信解除】
沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局
toshiyuki-sawayanagi@tamagawa-seiki.co.jp
木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局
ic1267@city.iida.nagano.jp



下伊那農業高校教諭と話し合いました～実務者会

「本校の7割が地元就職しています。これからの地域の担い手として生徒たちが育つために、ぜひ現場の方たちから学ぶ機会が必要と考えました。」



4月20日(金)地域ぐるみ環境ISO研究会実務者会が行われました。冒頭は、実務者会に参加いただいた、下伊那農業高校食品化学科の藤本先生のあいさつです。

「食品の製造から分析まで、食の未来を拓くアドベンチャー」。食品化学科が育てようとしている人材です。

「食品化学や微生物の学習を通じて、製造原理や成分分析技術を体験的に身につけます。そしてそれらを元に、地域の素材を活かした食品製造を行いながら、食を見る目を養います。将来食品関連の仕事に従事するために必要な、広い知識を習得することを目標としています。」

同校では、この目標を達成するために、「食品化学」「微生物基礎」「食品製造」という3つの専門科目を中心に教育を進めています。

南信州は多様な農産物の産地で、発酵食品、果実加工品、漬物、菓子など多様な食品産業が営まれています。そういう現場で学ぶとともに技術や知識を身につけていく取り組みを進めています。

日本や地域の食文化を学び、特産品を製造するための基礎的な原理や技術を学ぶ「食品製造」。生徒自ら食品製造に取り組む「総合実習」。こういう食品製造に、環境配慮の視点を盛り込んだ事業を進めていきたい。

同校藤本先生の申し出は、持続可能な地域づくりを目指す研究会にとっても、次世代を育てる点で共通しています。

「製造過程で残渣となるおからは飼料やキノコ培地になります。脱水污泥は有機肥料に再生しています。1日あたり2,000t使用する地下水の処理も大変大事な仕事です(旭松食品)。食品関連産業に限らず、事業を通じた環境配慮の取り組みについて、研究会に参加する事業所から、様々な事例、アイデアを提供することができそうです。」

研究会としての関わり方は改めて検討しお知らせします。

学校と連携した人材の好循環～新しい研究会の可能性

3月の代表者会で、下伊那農業高校と飯田長姫高校生徒の皆さんに、日頃の研究成果を発表していただきました。教育活動を通して人材を育成し、そういう教育活動で人材が企業とつながっていく。地域ぐるみ環境ISO研究会では今後の活動分野に教育活動を加えていくことを検討中です。



中部電力や八十二銀行はすでに企業として学校教育の現場の支援を進めています。盟和産業では近隣の阿智高校の生徒たちに、リサイクルなど環境に関する自社の取り組みを現場や教室で教えています。今年と同校から1名採用。地域の企業と学校がつながることで、人材の循環につながるとしたら、持続可能な地域づくりの大きな可能性となります。

信濃毎日新聞3月27日の紙面で、長野県内の小中学校などの77.4%が環境学習の「教材整備や教案づくりに苦労している」という調査結果が報告されました。また環境意識を高めるための家庭との連携も、半分以上行われていないという回答でした。

さいわい飯田市の公立保育園や小中学校は、独自のEMS「保育園いむす21」「学校いむす21」に取り組んでいます。

「私たちの会社は、こんな仕事をしています。」「環境問題の解決のために、こんな活動をしています」。出前講座の開催や、園児、児童、生徒たちの現場受け入れ。研究会に参加する事業所が学校教育とつながって次世代育成の活動に参加すれば、地域にとっても研究会や参加事業所にとっても、人材の好循環につながりそうです。

「地育力によるこころ豊かな人づくり」。今年4月からスタートする飯田市第5次基本構想基本計画の柱となる施策の一つです。「地育力」とは、飯田の資源を活かして飯田の価値と独自性に自信を持つ人を育てる力。教育分野は研究会の活動に、新しい可能性をもたらしてくれるかもしれません。

南信州いむす21 取り組み事業所を訪問

南信州いむす21の改正にあわせて、これまで3月に提出いただいた「南信州いむす21取組状況報告書」に代えて、研究会実務者が分担し、事業所訪問を行うこととなりました。

取り組みを通して悩んでいることを相談する。訪問先で改善の提案を行う。先進的な取り組みを他の事業所に広げる。事業所訪問が、取り組み事業所にとっても、研究会にとってもプラスの機会となるように、準備を進めています。

訪問日程、担当、分担など詳細は、改めてお知らせします。

研究会事業所のレベルアップに向けて～悩み事相談会

「これまでは著しい環境側面を、数値化することで決定していました。この間の話し合いを受けて、従業員による提案と話し合いにより決定するしくみに代えようとしています」(パチンコダイエーグループ)。



EMSに取り組む実務者として、自社の取り組みを進める際の悩みを皆で話し合う「悩み事相談会」。

今年1月に行った第1回は、4.3「計画」特に4.3.1「環境側面」を中心に各事業所の取り組みを交流しました。冒頭のパチンコダイエーグループでは、相談会の意見交換を受けて、新しい仕組みを作り始めています。

今年も各回テーマを決めて、年3回ほど実施します。自社のEMSの取り組みを通し、「」について悩んでいます。そんな悩みを事務局までお寄せください。

次回悩み事相談会は5月下旬に行います。テーマ、日程、会場は、改めてお知らせします。

自社EMSのレベルアップを図る研究会の企画「悩み事相談会」。皆さんの参加、お待ちしております。

【ご意見、お問合せ】【配信解除】
沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局
toshiyuki-sawayanagi@tamagawa-seiki.co.jp
木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局
ic1267@city.iida.nagano.jp



みんなでちょっと動けば変わる

「みんなでちょっと動けば変わる」。こんな号外が手元に届きました。差出人は「TEAM GOGO!」。沖縄から鹿児島まで1ヶ月をかけ手こぎボートで旅した冒険など、目標を掲げた若者たちが動きながら変わっていく様子を記録したドキュメンタリー映画「107+1 動けば変わる天国はつくるもの」。監督のてんつくマンこと軌保博光さんが中心となって進めているプロジェクトの案内です。

ペンギンの話から

今から一年前、スーパー銭湯に行った時の話。サウナに入ろうと扉を開けたら、30人くらいの裸の男がみんな真剣な表情でテレビに釘付けになっていた。

内容はペンギンの話だった。

今までなら温度がマイナスなのに、その年は3度もあり、雨が降っていて、雨に打たれたペンギンの赤ちゃんは、体温調節ができなくて、苦しみながら亡くなっていた。その横でわが子を助けることもできず、天を見上げて泣いているお母さんの姿がたまらなくつらかった。「地球温暖化を止めたい!」って本気で思った。...

目を背けたくなる真実を知った時、人は色々なパターンに振り分けられる。ある人は、絶望を感じてあきらめる。ある人は、そんなのは嘘だ、信じられないと耳をふさぎ、自分には関係ないと今まで通りの生活をする。ある人は、何とかしようとして一度は思うけど、仕事の忙しさで忘れてしまい、今まで通りの生活をする。ある人は、何とかしようとして行動に移す。...動き出す人が増えたら、問題は解決してゆく。どうしたら、動き出す人が増えるのだろうか?...

一人でも多くの人に今、この世の中に起きていることを伝えよう。知れば感じる。感じたら動く。動けば変わる。

6月22日、日本の全世帯に4,700万部の号外を配る

この流れをつくるために、今年の夏至の6月22日、号外をまくことにした。普通にまくんじゃなく、豪快に号外をまくことにした。その部数は日本の世帯数分4,900万枚。1日に配られる数としては世界最高!ギネスに挑戦だ!

自分の生き方から変える

問題を解決する方法は、...誰かを批判するのではなく、何かを否定するのではなく、自分自身を見つめること。問題をつくっているのは一人ひとりのライフスタイルにあるのだから、当然、自分たちが変われば問題が消える。

...「私たちは何かを決める時、7代先のことを考えて決める」。これがネイティブアメリカンから教わったこと。ちなみに7という数字はいっぱいという意味があるので、ずっとずっと先の未来のことを考えて決めるという意味。...この考え方をモノサシにして、生き方を少し変えると、未来に希望がどんどん増える。...日本の全世帯がたった1個だけ今、使っている電球を省エネの電球(8分の1)に替えるだけで、なんと、92万台の車が路上から消えるぐらいのCO2の削減となる。

物語をつくる~100万人のキャンドルナイト

...動いたら素敵な物語が生まれたという東京のカフェスローという喫茶店の話...

2001年、日本にキャンドルナイトというエコなイベントが入ってきた。電気を消して、ろうそくの明かりで少しだけ時を過ごしましょうという、ロマンチックなイベント。夜の8時から10時だけの2時間を電気を消して過ごすことになった。

カフェスローでは、...毎月、お店でもやろうということになった。

はじめは1ヶ月に1日やったら、

店が閉まっていると思われたのか、お客さんが少なかった。...半年するとキャンドルナイトの日が一番、お客さんが来るようになり、2週間に1回となった。それでもお客さんが来るので、今では毎週金曜日がキャンドルナイトになった。この取り組みが「100万人のキャンドルナイト」につながっていく。

...6月22日夏至の日には、「100万人のキャンドルナイト」の日。去年は500万人が参加し、東京タワーだって消えた。...ろうそくの明かりの中で、たくさんの人が号外を家族や仲間と囲みながら、私ができることを語り合う。...「これなら家でできるね」「これなら会社でやってみよう」。...たくさんの方が未来のことを同じ時間に考えている日本ってかっこいい!

2007年から日本を変える

...世界の学者たちが地球温暖化はもう止まらないという...。でも...すべてはやってみなければわからない...。世界中の素敵な人が本気で動き出す。奇跡が起こらないわけがない。...始まりが2007年6月22日、でっかい花火をいっしょに打ち上げましょう。「2007年から日本が変わった」。そんな2007年にしたくて、号外をつくることに決めました。ぜひこの大挑戦に、あなたの力を貸してください。

現在同志を募集中

「動けば変わるチーム:号外をまいたり宣伝してくれる人」「支えれば変わるチーム:資金のサポートをしてくれる人」など、現在同志を募集中です。

詳しくは以下HP参照ください。

<http://www.teamgogo.net/index.html>

6月は環境月間、そして6月5日は環境の日。地域ぐるみ環境ISO研究会でも環境の日を

中心に一斉行動を計画中です。地域ぐるみの活動が若者たちの活動とうまくつなげられれば、もっと大きな運動に広がることのできるかもしれません。



りんごの花

【ご意見、お問合せ】【配信解除】
沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局
toshiyuki-sawayanagi@tamagawa-seiki.co.jp
木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局
ic1267@city.iida.nagano.jp



南信州宣言を目指して 南信州いいむす21 飯田工業高校に登録証

「南信州いいむす21の更新登録を受けたことをきっかけに、さらに上を目指してがんばります」。5月7日(月)牧野光朗南信州広域連合長から、飯田工業高校生徒会が、南信州いいむす21初級登録証を受け取りました。冒頭は生徒会長、佐々木考太生徒さんのあいさつです。



飯田工業高校は2004年6月南信州いいむす21に登録。当初から同校は国際規格ISO 14001の認証取得を目指していました。昨年4月、地域ぐるみ環境ISO研究会と南信州広域連合が、南信州地域で自己宣言に取り組む組織を第三者として確認する、ISO 14001南信州宣言というしくみを構築。有効期限満了前に初級の更新をすませ、1年間をかけて南信州宣言に挑戦することになりました。

生徒会、特にISO委員会が中心となり、各クラス単位で分別に取組み、廃棄物10%の減量を目指しています。OIDE清掃と名づけた、学校をあげた地域の美化活動も進めています。ISO 14001の取組みを生徒会全体で学習、共有するためにISO新聞も発行しています。校内は美しく、はきはきした受け答えのできる生徒たちの校風は、南信州いいむす21の取組みともつながっているようです。

すでに生徒会では、役員改選後の3月に、生徒会、ISO委員会による学習会も実施。南信州宣言に向けて着々と準備を進めています。次世代地域の担い手たちのこの取組みは、持続可能な地域の将来を考える上でも、大変頼もしい動きです。

「ISO 9001内部監査員養成セミナー」飯田で開催

ISO 9001内部監査員養成セミナーが、飯田産業技術大学の講座として開催されます。

同大学は、4年生大学のない南信州で、必要なテーマにあわせて講師を選び講座を開催するバーチャル大学です。飯伊地場産業振興センターが事務局となり、信州大学、明治大学などの研究機関、地元企業、行政という産学官が共同で2001年に開設。「地域のポテンシャルを引き上げることは企業のポテンシャルを引き上げることと同義である」という理念のもと、新任・中堅社員の技術指導、企業経営者・管理者へのマネージメントなど、地域全体で人材を育成することを目的に、年間を通して様々な講座を開催しています。

ISO 9001内部監査員養成セミナーは、7月13日(金)14日(土)に開催。会場は飯伊地場産業振興センター。時間は両日とも9時から16時。講師は日本ISOコンセンサス機構(JOIC)理事長の池田輝雄さんです。「システム構築までのプロセス」「マネジメントシステムの考え方」「ISO要求事項の解説」「内部監査の進め方」「ケーススタディ」などを学びます。

研究会でも多くの実務者がISO 9001と14001を兼ねて担当しています。環境に合わせて品質の力量を高める機会として活用してみませんか。

参加費は一人20,000円で、どなたでも参加できます。講座の問い合わせ、申し込みは財団法人飯伊地場産業振興センターまで。

Tel 52-1613 fax 24-0962
e-mail info@isilip.com

研究会ではかねてから、ISO 14001内部監査員の養成講座を地域で開催し、環境マネジメントシステムに取り組む実務者の力量を高める機会を設けたいと考えてきました。次は研究会と同大学が連携し、この講座の実現につながることも期待しています。

5月22日は悩み事相談会 参加者を募集しています

環境マネジメントシステムにたいする事業所の取組みのレベルアップや、実務者の力量を高めることを目的に、第2回目となる悩み事相談会を開催します。

今回は以下のようなテーマを中心に事業所の取組みを交流します。

「4.3.2 法的及びその他の要求事項：法規制の特定方法、法規制変更内容の入手方法」「4.5.2 順守評価：順守評価の方法」「4.4.2 力量、教育訓練及び自覚：新入社員に対する教育方法(内容、講師、テキスト)、内部環境監査員に対する教育方法(同上)、『自覚』させるために実施していること」。

日時は、5月22日(火)、午後1時30分から5時。会場は三菱電機株式会社中津川製作所飯田工場です。

参加希望者は5月16日(水)までに事務局へお申し込みください。

なお参加者は、今回のテーマに関わる自社の取組みを紹介する資料を、1部持参してください。電子データも歓迎します。

悩み事相談会。今年はあと2回開催します。相談したいテーマ、事務局までぜひお寄せください。



写真はオランダ中西部の学術都市、ライデン市にある緑豊かなキューケンコフ公園です。通信読者の小林治人さんから、現地よりメールで送っていただきました。皆様からの素敵な写真も、お待ちしております。

【ご意見、お問合せ】【配信解除】
沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局
toshiyuki-sawayanagi@tamagawa-seiki.co.jp
木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局
ic1267@city.iida.nagano.jp



6月5日から11日は「環境の日」一斉行動です

1972年6月5日、スウェーデンの首都ストックホルムで国連人間環境会議が開催されました。京都議定書の締結をはじめとした国際的な共同行動のきっかけとなったこの会議を記念し、この年、日本とセネガルによる共同提案で、6月5日が「世界環境デー」となりました。そして1993年6月5日、我が国では環境基本法が施行。法施行にあわせてこの日を「環境の日」としました。また6月いっぱい環境月間とし、市民、企業、行政が環境に関わる様々な催しを集中して取り組む月となりました。

今年2月「気候変動に関する科学的知見を評価する」IPCCの第1作業部会の報告では、地球温暖化はますます深刻さの度合いを増していると言われてきました。また世界の気温上昇の原因が人為起源にある可能性は2001年の第3次報告の「可能性が高い(66%から90%)」にたいし、今回は「可能性がかなり高い(90%から99%)」と、人間の活動によるものである可能性が高まりました。

しかし5月の「温室効果ガスの排出抑制と気候変動の緩和策を評価する」第3作業部会では、人類の英知を集め、行動に結びつけられれば、温暖化の進行を止めることも可能であると報告されました。

地域ぐるみ環境ISO研究会では、環境の日を記念し、6月5日(火)から11日(月)を「『環境の日、一斉行動週間』とし、温暖化防止に向けた一斉行動を行うこととしました。



ノーマイカーとライトダウンそして独自の取り組みを

京都議定書発効2周年を記念して、2月16日にはノーマイカー通勤と午後10時ライトダウンの一斉行動を行いました。59事業所の参加と、ノーマイカー通勤1,929人、ライトダウン2,745人が参加。削減された二酸化炭素の削減効果も推計で5.7tとなりました。



「会社の事情にあわせて1週間くらいの幅を持たせてもらえると取り組みやすかった」。参加事業所からいただいた意見を受けて今回は、6月5日(火)から1週間と取り組みの期間を延ばし、「『環境の日』一斉行動」とします。一斉行動の呼びかけ内容は以下の通りです。

平成19年6月5日(火)から11日(月)を「環境の日、一斉行動週間」とする。

1週間のうち一回以上、参加事業所の従業員各人が「ノーマイカー通勤」及び又は「午後10時までに家庭の照明及びテレビの電源を切る」取り組みを行う。

定時退社など、会社独自の取り組みをつくり、期間中に実施する。

今回はノーマイカーとライトダウンの取り組みの他に、可能であれば、会社独自の取り組みも実施していただくこととしました。

一斉行動の成果は、後日ぐるみ通信などで報告します。多くの皆様の参加、お待ちしております。詳しくは研究会HPまで。

<http://www.city.iida.nagano.jp/kankyosho/iso/index.html>

月尾嘉男さんの講演会が5月26日に行われます

「...このように事態が切迫しているのに社会に危機意識が浸透していないのは理由がある。等比級数の魔力である。...湖面に一枚の睡蓮が浮上し、毎日2倍の比率で増加していく。29日目に湖面の半分が睡蓮になってしまったが、全体がそうなるのは何日かという問題である。最初から観察していれば正解は簡単だが、たまたま29日目に湖畔に到着した人間には予測できない。これを29日目の恐怖という。現在が何日に相当するか正確には不明である。すでに29日目以後になっている、すなわち手遅れであるという学者もいないわけではない。しかし、そうだからと傍観しているわけにもいかない。現在の社会には様々な29日目の恐怖が存在している。それに敢然と挑戦していく以外、人類に未来はない。...」(月尾嘉男の新幸福論より)



5月26日(土)午後1時30分から飯田合同庁舎3階で、月尾嘉男さんの講演会が行われます。テーマは「環境の視点から見た21世紀の地域づくり」。主催は豊かな環境づくり飯伊地域会議他。

月尾さんは東京大学名誉教授、「イラスト図解地球共生」「地球の暮らし方」などの著書があります。森本毅郎「スタンバイ：8時です」では、地球環境から国際政治まで、幅広い話題を愉快地解説するなど、テレビ、ラジオなどでも活躍されています。参加費は500円。どなたでも参加できます。詳しくは下伊那地方事務所環境課まで。

Tel 0265-23-1111 内線2154

【ご意見、お問合せ】【配信解除】
沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局
toshiyuki-sawayanagi@tamagawa-seiki.co.jp
木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局
ic1267@city.iida.nagano.jp



南信州いむす21 トキワフーズに中級登録証

「地域独自の環境マネジメントシステムという考えに共感し、2004年11月から取り組み始めました。この取り組みを通して、環境に配慮した職場づくりと社員意識の向上を図ってきました。登録証を受けたこれからは始まりです。地球環境や職場環境の改善に向けた取り組みを一層進めていきます」。



5月21日、トキワフーズ株式会社に、牧野光朗南信州広域連合長から、南信州いむす21中級の登録証が交付されました。冒頭は、同社代表取締役、熊谷政敏さんのあいさつです。

ごみの分別と減量化、職場内清掃、電気・電話使用量の削減、エコドライブ。業務用食品卸売業を営む同社では、上記取り組みの他、回収するペットボトル容器の洗浄を顧客に要請し、リサイクルにつなげています。また、これまでFAXで発注していた取引先への連絡をe-mailとすることなどで、ペーパーレス化を図っています。電子化により通信費が前期の81%に削減されるなど、経営改善にもつながっています。

「地域ぐるみの環境改善活動の一翼を担っていただき、敬意を表します。これからも上級、ISO14001南信州宣言など、ステップアップに挑戦してください」。牧野広域連合長からのエールです。

トキワフーズへの登録証の交付で、南信州いむす21の登録団体は、初級47、中級7、ISO 14001南信州宣言1事業所となりました。

第2回目は法令と教育 悩み事相談会から

「法令のどの条項が、自社の業務に具体的に該当するか。それを特定することが何よりも重要です」。

5月22日(火)三菱電機株式会社中津川製作所飯田工場を会場に、2回目の悩み事相談会が開催されました。今回のテーマは「法的及びその他の要求事項」と「力量、教育訓練及び自覚」。

順守しなければならない法令を、最新の情報として管理するために、どのような取り組みをしているか。「改正の情報をインターネットで配信してくれる業者と契約」「環境の専門書の定期購入」「インターネット官報の活用」「業界紙で確認」などが紹介されましたが、冒頭の発言のように、何よりも実務者や現場が、仕事と法令を関係づける姿勢と努力が必要です。

「力量、教育訓練及び自覚」では、内部監査員の養成を、外部機関に派遣するケースも多いことから、研究会として取りまとめ、飯田で開催することができるよう関係機関と調整してみることとなりました。



また、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」の改正に伴い、2006年度分から排出事業所の責任で、マニフェストを県知事に提出することが義務化されたことを受け、電子マニフェストの導入についても意見交換されました。

EMSの運用の悩みを出し合う相談会。次回の開催予定は9月です。ぜひ事務局までお気軽に相談をお寄せください。

訪問支援を行います 南信州いむす21

2006年4月南信州いむす21グレードアップの一環で、取り組み事業所の訪問支援を行います。旧システムでは毎年3月に、各事業所から「取組状況報告書」を提出いただきました。新システムでは研究会メンバーが、積極的に取り組み事業所と結びつき、相談支援を行うこととなりました。

研究会参加事業所の実務者が、15のチームに分かれて南信州いむす21登録事業所を訪問し、各事業所の取り組みの支援を行います。

今回の訪問は審査ではなく支援。各社の南信州いむす21の取り組みの一層の活性化にむけて、事業所の相談に答えたり、改善点を提案します。先進的な取り組みを拾い出し皆で共有できれば、研究会に参加する事業所の取り組みの改善につながります。

まずチームリーダーが各事業所と訪問日程を調整します。6月22日(金)までに訪問が完了できるよう、チームリーダーの皆さんは、日程調整をお願いします。

南信州いむす21に組み込む事業所の皆さんは、ステップアップの機会として、ぜひ今回の相談支援をご活用ください。



飯田線の車窓から～高遠原から見た中央アルプス

【ご意見、お問合せ】【配信解除】
沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局
toshiyuki-sawayanagi@tamagawa-seiki.co.jp
木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局
ic1267@city.iida.nagano.jp